CONTENTS

教師海外研修概要 …… 1

国内研修

事前研修 …… 3

事後研修 …… 4

海外研修

研修日程(ルワンダ) …… 5

研修国概要 …… 6

主要なJICAプロジェクト～ルワンダ～ …… 7

ルワンダで聞いたこと、感じたこと …… 8

参加教員による授業実践

■小学校

池田　達彦　(交野市立交野小学校) …… 11

木村　あずさ　(三郷町立三郷北小学校) …… 19

中　陽佑　(奈良市立都祁小学校) …… 27

逸見　学　(神戸市立だいち小学校) …… 34

藪内　真帆　(京都市立向島秀蓮小中学校) …… 43

■高等学校

楠本　祐介　(大阪市立第二工芸高等学校／工業（デザイン）) …… 51

田辺　記子　(立命館守山高等学校／地歴・公民) …… 59

田橋　知直　(追手門学院中高等学校／英語) …… 70

森戸　隆文　(兵庫県立赤穂高等学校/情報) …… 80

■教育委員会

辰巳　展崇　(広陵町教育委員会) …… 87

JICA関西　開発教育支援事業のご案内 …… 95

教師海外研修概要

JICA の開発教育支援

グローバル化が進む世界では、地球に住む私たち自身が自らのライフスタイルを見つめなおし、国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。

貧困・環境・人権などの様々な課題を抱える地球が、より持続可能な方向へシフトするにはどうしたらいいのでしょうか？

持続可能な開発のための教育（ESD）にも挙げられているように、その解決に向けての鍵の１つは「教育」にあると考えられています。

相互依存が深まる世界において、開発途上国が直面する多様な課題を自分たち自身の問題として考え、その解決のために自ら行動に移すことのできる人間を育成するために、開発教育・国際理解教育への関心はますます高まるばかりです。

JICA 関西では、開発途上国における技術協力事業、資金協力事業で培った経験、人材やネットワークを活用し、国際協力出前講座、JICA 関西施設訪問、教師海外研修、開発教育指導者研修等の開発教育支援事業を関西地域で広く実施し、地域での開発教育・国際理解教育を支援しています。教師海外研修は、その事業の一つです。

教師海外研修とは…

I.研修目的

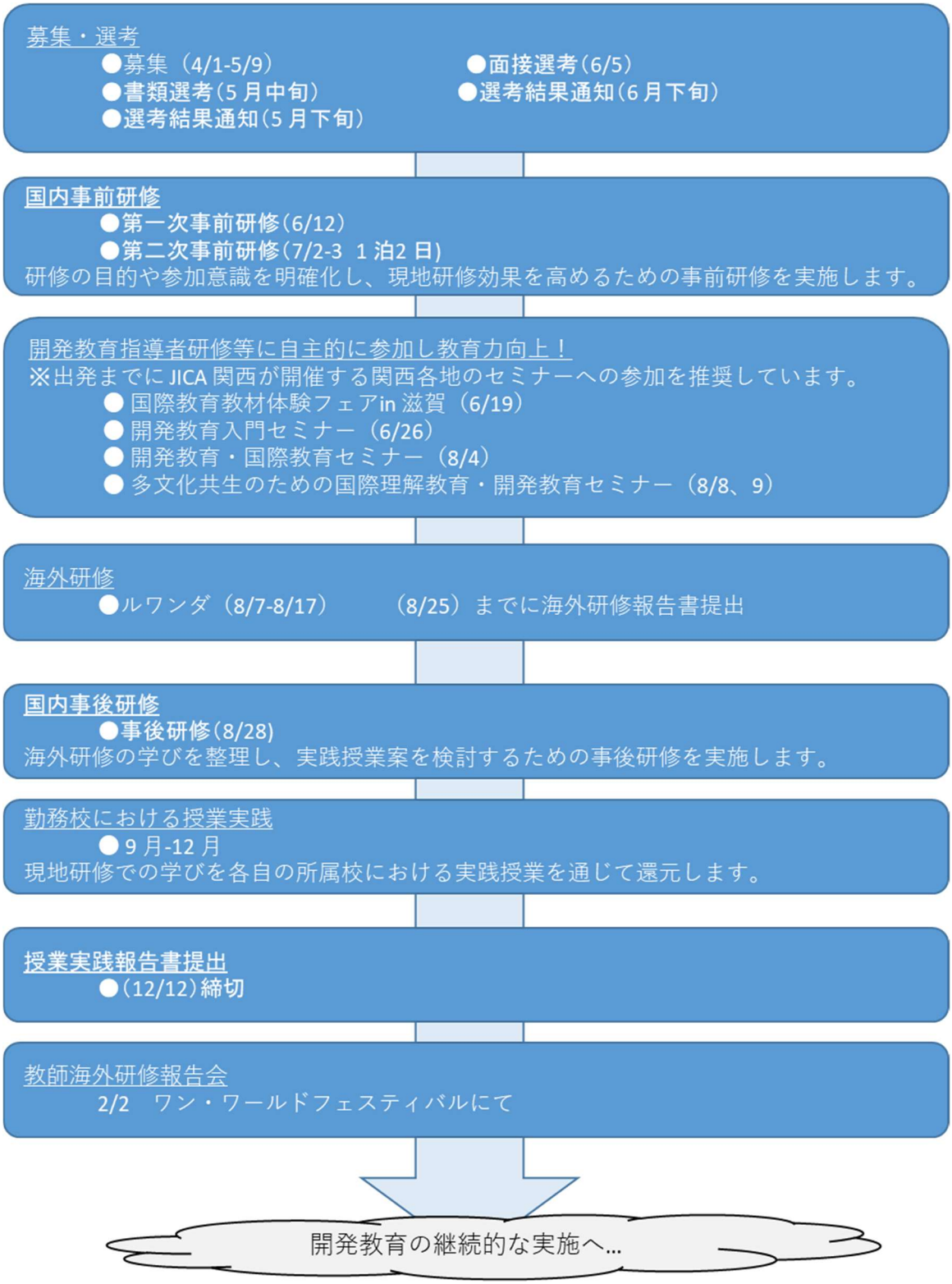
開発教育・国際理解教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの教員に、JICA が協力を行っている開発途上国での 10 日程度の海外研修に、参加していただきます。

帰国後は、海外研修で得た経験を、参加した先生自身に自分の教室で子ども達に伝えていただきます。さらに、その経験をそれぞれの学校の所在地域において広く発信していただき、開発教育・国際理解教育の実践者として活躍いただくこともねらいとしています。

II.教師海外研修の流れ

()内は 2019 年度の日程です。



国内研修

事前研修①

(1)日時:2019 年 6 月 9 日（日）10:00～17:00

(2) プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:15	オリエンテーション 参加者自己紹介、JICA事業概要、教師海外研修の目的について	
11:15-13:15	ワークショップ 開発教育とは？実践ワークショップ （開発課題の教材化、効果的な授業実践のコツ）	川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 （特活）開発教育協会 理事 佐藤 友紀氏
13:15-14:00	休憩	
14:00-16:00	ルワンダ内戦を経験したお二人から学ぶ （同日JICA関西にて開催の講演会へ参加） 永遠璃マリールイズさん講演 マニ・マーティンさんミニライブ	（特活）ルワンダの教育を考える会 永遠璃・マリールイズ氏 マニ・マーティン氏
16:10-17:00	ふりかえり・事務連絡	

事前研修②

(1)日時:2019 年 7 月 6 日（土）10：00～7 日（日）17：00

(2)プログラム内容

【第 1 日目：7 月 6 日】

時間	内容	講師
10:00-11:30	JICA事業概要説明・海外研修内容説明	
11:30-12:30	派遣国概要① 青年海外協力隊体験談	青年海外協力隊 帰国隊員 玉田 侑希氏
12:30-13:30	休憩	
13:30-14:30	派遣国概要② 過年度教師海外研修（教育行政コース）報告	御所市立掖上小学校 校長 細井 司 氏 （2016年度研修参加）
14:45-16:30	過年度JICA関西教師海外研修参加者報告 （1）海外研修で学び感じたこと （2）得られた経験の教育活動への還元	過年度参加者 （2018年度ネパール研修）
16:30-18:00	ルワンダでの活動について（役割分担等）	
19:30-21:00	ふりかえり	

【第２日目：７月７日】

時間	内容	講師
10:00-12:30	ワークショップ①　授業テーマの考案	川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏
12:30-13:30	休憩	
13:30-15:30	ワークショップ②　実践授業案の作成	川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏
15:30-16:30	渡航説明	
16:30-17:00	事務連絡	

事後研修

(1)日時:2019 年 8 月 25 日（日）10：00～17：00

(2) プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:00	ワークショップ① 海外研修での学びの整理、教材の共有	（特活）開発教育協会 理事　佐藤　友紀氏
11:15-13:15	帰国後の持続的な授業実践について	青年海外協力隊帰国隊員 大槻　一彦氏
13:15-14:00	休憩	
14:00-16:00	ワークショップ② 実践授業計画の作成、授業案の共有	川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏
16:10-17:00	事務連絡(報告書作成)	

事前研修①　JICA関西セミナー
アフリカ・ルワンダから学ぶ
～いのち・平和・教育～　の様子

歌にダンスで会場は大盛り上がり！

事後研修の様子(学びの整理)

ルワンダ現地研修の気付きをSDGs目標別に整理

研修日程(ルワンダ)

2019 年 8 月 4 日(日)～8 月 14 日(水)　10 泊 11 日(移動日含む)

日程	プログラム	滞在先
8/4(日)	・伊丹空港発	
8/5(月)	・羽田空港→ドーハ→キガリ空港着 ・到着ブリーフィング	キガリ
8/6(火)	・在ルワンダ日本国大使館表敬 ・JICAルワンダ事務所事業概要説明 ・コーヒーバリューチェーン強化プロジェクト視察 （国家農業輸出振興機構コーヒー圃場） ・ICTイノベーションエコシステム強化プロジェクト視察 （K-Lab、Fab-Lab）	キガリ
8/7(水)	・キガリ虐殺記念館視察 ・ルワマガナ郡潅漑開発計画視察 ・ルワマガナ第一次地方給水計画視察（公共水栓） ・青年海外協力隊員活動視察：ルワマガナ郡庁 ・ホームビジット	キガリ
8/8(木)	・教育省、ルワンダ教育委員会表敬訪問 ・学校ベースの現職教員研修制度化・質の改善プロジェクト視察 （ルリンド郡庁） ・トゥンバ高等技術専門学校視察 ・青年海外協力隊員活動視察： フェアチルドレン・ユースファンデーション（聾学校）	ムサンゼ
8/9(金)	・ムトボ武装・動員解除/社会復帰リソースセンター視察 ・ウムチョムイザ学園訪問、平和ワークショップ実践	キガリ
8/10(土)	・教材収集（マーケット、本屋など） ・ニャマタ虐殺記念館視察	キガリ
8/11(日)	・ルワンダ民族博物館視察（フイエ） ・王宮博物館視察（フイエ）	ムハンガ
8/12(月)	・協力隊員活動視察：ムハンガ教員養成校訪問、平和ワークショップ実践 ・事務所報告・研修ふりかえり ・キガリ空港発	キガリ
8/13(火) 8/14(水)	・成田空港→羽田空港→伊丹空港	

研修国概要

ルワンダ共和国
(Republic of Rwanda)

首都：キガリ（Kigali）
面積：2.63 万平方キロメートル
人口：1,230 万人（2018 年，世銀調べ）
民族：フツ，ツチ，トゥワ（なおこれらを示す身分証明証は廃止されている）
言語：ルワンダ語，英語（2009 年公用語に追加），フランス語，スワヒリ語
宗教：キリスト教（カトリック，プロテスタント），イスラム教
政体：共和制
主要産業：農業（コーヒー，茶等）
GDP(名目)：95.09 億ドル（2018 年，世銀）
一人当たり GDP：780 米ドル（2018 年，世銀）
通貨：ルワンダ・フラン
日本の援助実績：（1）有償資金協力（2017 年度まで,E/N ベース）192.08 億円
（2）無償資金協力（2017 年度まで,E/N ベース）442.95 億円
（3）技術協力実績（2017 年度まで,JICA 経費実績ベース）
157.58 億円
主要援助国（2017 年度）：（1）米国（2）英国（3）オランダ（4）ベルギー
在留邦人数：134 人（2017 年 10 月現在）
在日ルワンダ人数：101 人（2018 年 12 月現在）

（2019 年 12 月付外務省ホームページより）

主要な JICA プロジェクト　～ルワンダ～

ICT イノベーションエコシステム強化プロジェクト

協力期間 2017 年 11 月～2020 年 11 月

ルワンダは 2000 年代に「ICT（情報通信技術）立国」を掲げ、国内外の多くの投資家を魅了し、戦後の復興と高い経済成長率を実現してきました。このプロジェクトでは、ICT 関係者や新規参入企業、投資家、教育機関など国内外の関係者が連携して新規ビジネスを立ち上げるための環境基盤となる「ICT イノベーションエコシステム」の強化を目指しています。「knowledge=知識」の頭文字を取った「k-ラボ」を設立し、起業家の支援を行っています。

コーヒーバリューチェーン強化プロジェクト

協力期間：2017 年 5 月～2020 年 5 月

全人口の約 8 割が農業に従事するルワンダでは、農業セクターが GDP の約 3 割（輸出総額約 4 割）を占め、国家経済にとって重要な役割を果たしています。中でもコーヒーは農水産物の輸出 8 割を占める代表的な輸出産品です。このプロジェクトはルワンダ産コーヒーのバリューチェーンを強化して市場競争力を高めることを目標に、コーヒー輸出体制の整備を行っています。

学校ベースの現職教員研修の制度化・質の改善プロジェクト

協力期間：2017 年 1 月～2019 年 12 月

ルワンダにおける初等教育の純就学率は 96.8%*と高い数値を誇る一方で、修了率は 61.3%*に留まっています。また、小学校 3 年生に期待される読み書き・計算能力には約 4 割の生徒が到達せず*、教育の質に課題を抱えています。このプロジェクトは教員向けガイドラインや授業計画マニュアルの開発、また教員への授業研究支援などを通して、ルワンダにおける教育の質の向上を目指しています。(*教育省調べ)

更にルワンダのプロジェクト情報を知りたい方は JICA ウェブサイトをご参照ください。

https://www.jica.go.jp/rwanda/

ルワンダで見たこと感じたこと

JICA教師海外研修
2019年8月4日～8月14日

コーヒープロジェクトの焙煎工場を視察。厳しい品質管理がなされています。

大使館表敬でこれからの決意表明！

起業を志す若者と意見交換。社会問題解決への強い意欲を感じました。

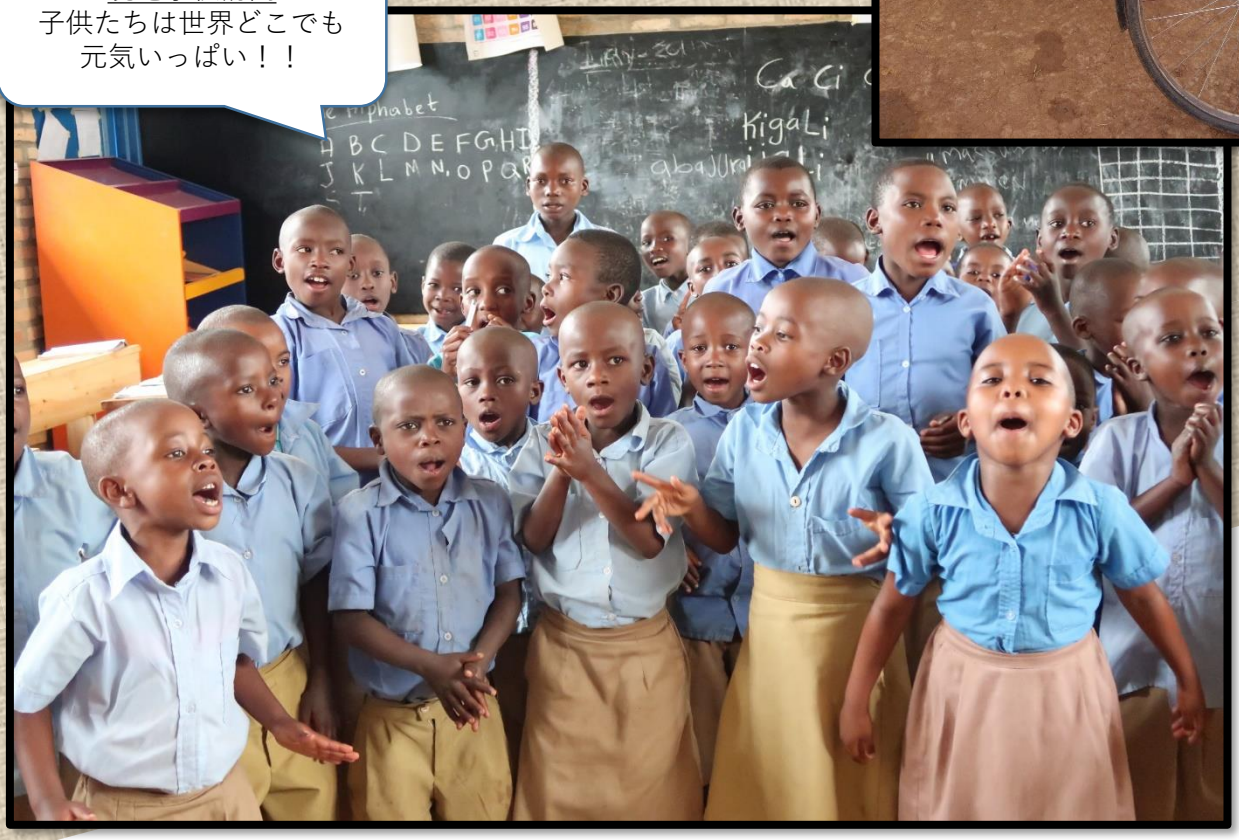
JICAがICT起業家を支援するインキュベーション施設、K-Labを訪問。

キガリ虐殺記念館を視察。ジェノサイドを学び、平和の重要性を考えました。

ホームビジット
１日２回の食事は自給自足。
「子どもと一緒にいることが幸せ」というお母さんの言葉が印象的でした。

水の入ったたくさんの
20Lタンクを自転車で運ぶ、
そのパワーに圧倒！

現地学校訪問
子供たちは世界どこでも
元気いっぱい！！



珍しい日本からの訪問者を児童全員で大歓迎してくれました。

ウムチョムイーザ学園での
平和ワークショップ
日本の小学生が描いた「平和」の絵を持参し、紹介しました。

ワークの後は、学園の生徒たちにとっての平和を考えてカードに書いてもらいました。

いきたい！しりたい！せかいのくに！

氏名：　池田達彦　　学校名・場所：　交野市立交野小学校・ランチルーム

担当教科：　小学校全科　　実践教科：　生活・道徳・特別活動・図工・音楽

時間数：　6時間　　対象学年：　1学年　　人数：　114人

【1】単元のテーマ		
・開発途上国のルワンダの環境や文化を知り、日本との相違点について考える。 ・世界に目を向け、様々な環境、文化などについて知る。 ・行ってみたい国、もっと知りたい国について興味、関心を持ち発表する。		
【2】 単元の評価 規準	（ア）関心・意欲・態度	ルワンダをはじめ、世界の国に興味をもって知ろうとする。
	（イ）思考・判断・表現	・日本とルワンダを比較し、そこから世界の様々な国の環境、文化について考えることができる。 ・ルワンダのお友だちへの質問を考えることができる。
	（ウ）技能	ルワンダの環境や文化について知り、ルワンダの布を用いたボタンや、エコサッカーボールを作ることができる。
	（エ）知識・理解	ルワンダの生活を見て、世界の国々をはじめ開発途上国に関する理解が深まっている。
単元設定の理由	本学級の児童は、外国の文化に触れたり、外国籍の友だちや人に出会ったりする経験が少ない。そのため国と国との環境や文化の違いがあることを理解できていない児童も多くいる。また、平和教育においても６年生の折り鶴作成の際の「平和」という言葉を難しく感じる児童が多くいた。そこで、ルワンダという国を知ることをきっかけに世界に目を向けさせ、また、歴史的な背景を持つ両国の子どもたちに自分たちが力を合わせ、協力する活動が自然と身近な平和を築いているということに気付かせたいと考えた。 単元のはじめには世界についての知識が浅いため、様々な国の本を並行読書できる環境を整えた。そして、現地での写真を用いて日本とルワンダの環境や文化の違いについて考えさせる。単に途上国の生活を見て日本でよかった、など安易に流れないように、人々の思いや経済事情なども伝えていきたい。そこから、世界にはどんな環境や文化があるのか興味を持たせる。 学習の中では世界をより身近な事として捉えられるような工夫を取り入れた。１つは、ルワンダの伝統的な布を使ったボタンづくり。２つめはルワンダの子どもたちと同じようなエコサッカーボール作り。活動をきっかけに、それぞれの国の伝統文化や環境問題についてもふれさせたいと思う。 平和教育においては、海外研修渡航前に児童が描いた笑顔の顔や染物などを使って教師が平和パズルを作成した。パズルの中には、平和のイメージが思い浮かびやすいように折り鶴や「笑」という漢字を用いた。ルワンダ現地学校の実践授業の際には現地の子	

	どもたちと平和パズルの完成ワークを行い、あわせて日本の子どもたちが「平和・笑顔になるとき」を伝えた。同じように日本の子どもたちにもパズルを体験させ、まずは、協力して一つのものを完成させることが平和に近づくのだと伝えたい。また、ルワンダの子どもたちの様子や平和に対する思いも伝えることで平和のイメージをより深めていきたいと思う。 　今回の単元のゴールには、児童が自分たちの「いきたい！しりたい！せかいのくに！」をまとめ、クラスで交流する時間を設定している。本単元から児童が世界の国々に興味を持ち、これからの子どもたちの国際理解の素地となるような内容としたい。

【4】展開計画（全６時間）

時	めめあて・〇ねらい	活動・内容	使用教材
1	めルワンダってどんなくにかかんがえよう。 〇ルワンダと日本の環境や文化の共通点や相違点について考える。	１．写真をみてルワンダの国を知る。 ２．ルワンダと日本の共通点や相違点について考える。 【・スーパー・動物・食べ物・運び方・市場・野菜・水・街・ゴミ・遊び・楽器・服装・肌の色】 ３．楽器や水くみの重さなどを体感する。 ４．授業のふりかえりを行う。 ①授業でわかったこと ②ルワンダの友だちに聞いてみたいこと。 ③行きたい国・知りたい国 についてまとめる。	・せかいじゅうのこどもたちが（歌・ＢＧＭ） ・太鼓 ・水 ・マラカス ・布 ・エプロン 【並行読書教材】 ・せかい地図絵本 ・さまざまな国の本
2	めにほんとルワンダのぬののちがいをかんがえよう。 〇二つの国の布の違いから、伝統や文化について知りボタンをつくることができる。	１．ルワンダの布と日本の布を見て、二つの布の違いについて考える。 ２．布が何に使われているのかを考え発表する。 【・服　・鍋敷き　・鍋つかみ　・カバン・抱っこひも】 ３．ルワンダの布を使ってボタンをつくる。 ４．授業のふりかえりを行う。 ①授業でわかったこと ②ルワンダの友だちに聞いてみたいこと。	・布 ・エプロン ・鍋敷き ・鍋つかみ ・カバン ・ボタンセット ・トンカチ
3	めにほんとルワンダのあそびのちがいをかんがえよう。 〇開発途上国について知り、エコサッカーボールを	１．ルワンダの家の様子についてわかる写真をふりかえる。 ２．ルワンダと日本の遊びと同じところ違うとこを見つける。 【・タイヤ転がし　・家づくり・サッカー・ドッチボール　・サッカーゴール】	

	作ることができる。	３．サッカーボールについて考え、なぜバナナの葉やビニール袋でつくられているのか考える。 ４．ルワンダの生活の写真を見てルワンダの国の経済事情について知る。 ５．自分たちで手作りのサッカーボールをつくる。 ６．授業のふりかえりを行う。 ①授業でわかったこと ②ルワンダの友だちに聞いてみたいこと。	【並行読書教材】 ・せかい地図絵本 ・さまざまな国の本
4	めにほんとルワンダの学校のちがいをみつけよう。 〇コミュニケーションの大切さに気付き他言語への興味を持つ。	１．ルワンダの学校の写真をみて共通点・相違点について話し合う。 【・校舎　・服装　・教科書　・給食 ・黒板　・運動場　・友だち】 ２．言葉が通じない状況だったらどうするのか考える。 ３．非言語コミュニケーションとして相手に伝える方法があるのか考える。 ４．言葉の大切さに気付き、ルワンダ語をペアで話してみる。 ５．授業のふりかえりを行う。 ①授業でわかったこと ②ルワンダの友だちに聞いてみたいこと。	
5 本時	めパズルをしたときのきもちをはなしあおう。 〇パズルを完成させ、友だちと協力することで（平和・笑顔）になるということに気付く。 〇ルワンダの友だちの（平和・笑顔）に関する思いを聞き自らの平和に関する思いを深める。	１．笑顔になる時はどんな時かを思い出す。 ２．パズルを作る時・完成した時に感じたことを交流する。 ３．パズルの説明を行う。 ４．ルワンダのお友だちの平和・笑顔になる時の思いを聞き感想交流する。 ５．歌を歌い授業のふりかえりを行う。 ①授業でわかったこと ②ルワンダの友だちに聞いてみたいこと。	・平和パズル ・プロジェクター ・音楽 ・せかいじゅうのこどもたちが
6 7	めいきたい！しりたい！せかいのくに！について発表しよう。 〇自ら興味を持った国について意欲的に調べようとする。	１．ルワンダの国について知ったことふりかえる。 ２．自分がいきたい！しりたい！国について調べ、まとめる。 ※調べてもわからないことや聞きたいことはしつもんコーナーに投稿する。 （先生や６年生に調べてもらう。）	

	○調べた国についてお友だちと交流し、さまざまな国に興味をもつ。	３．クラスでそれぞれの国について発表を行う。 ４．友だちと感想交流をおこなう。 ５．「１－４いきたい！しりたい！せかいのくにＢＯＯＫ」を作成する。 ６．全体の学習のふりかえりを行う。	

本時の展開

過程 時間	□教師の発問　○児童の反応・活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入	□笑顔になるときってどんなときか覚えていますか？ □今日はみんなで大きな一つのパズルをしてもらいます。 □どうすればうまくパズルを完成させることができるかな？ ○・力を合わせる。 ・友だちと話し合う。 ・色分けして活動する。 ・協力する。	・自分たちの笑顔を描いた時、笑顔になる時はどんなときだったか思い出させる。	・平和パズル
	パズルをしたときのきもちをはなしあおう。		
展開	○友だちと話し合いながらパズルを完成させる。 □パズルを作る時、感じたことや思ったことはありますか？ ○・友だちとパズルの取り合いになった。 ・邪魔してきた。 ・みんなでやるのはやりにくかった。 ・たくさん話し合うことができた。 ・協力できた。 □完成させたときに感じたことはありますか。 ・うれしかった	・手だてがない様子であれば、色分けするようにアドバイスをする。 ・時間をみて全体完成図をグループごとに渡す。	

	□なぜ完成させることができたのでしょうか。 ○・友だちと協力したから。 ・ヒントをもらったから。 ・みんなが頑張ったから。	・友だちとの身近な争いについて考え、協力することが平和・笑顔につながることについて伝える。	
まとめ	□パズルの説明をします。	・鶴は平和の象徴。桜は日本のお花。漢字は『笑』みんなの笑顔と染物、朝顔の染物などから平和と笑顔についての関わりがわかるように伝える。	・折り鶴の本 ・折り鶴 ・鶴や桜の写真
	□ルワンダのお友だち、えがおになるとき（平和）を聞いて思ったことはありますか。 ○・ゲームとか物がない。 ・だれかと何かしているとき。 □最後にうたをうたいましょう。 ・今日の活動のふりかえりを行う。	・ルワンダのお友だちの平和に関する思いを聞き、平和・笑顔について深める。	

【授業実践の様子】

導入活動のふりかえり

パズル作成の様子

パズルを作る時の気持ち交流

パズル完成

パズルの感想交流

ふりかえり・歌

【6】本時の振返り

導入部分では１学期に取り組んだ「笑顔になるとき」を思い出すところから始めた。覚えている児童も多く、『どんなときに笑顔になるか？』を想起させることができた。そこから平和パズル完成ワークを行ったが、パズルは児童にとって興味を持って取り組むことができるツールであった。加えて、事前に自分たちが描いた笑顔がパズルになっていることで、より自分ごととして捉えることができたように思う。

パズルの中では児童間での話し合いが必然的に生まれた。もちろん、途中言い合いや取り合いなどもあった。そんな中でも思いのほかパズルを完成させることがスムーズに進んだため、途中で作業を止め、全体で話し合う時間をとった。そうすると、活動の中での些細な言い合いや不満などが話に上がり、全員でパズルを完成させるための話し合いとなった。そこから、一人一人のことを考える視点や、大きな目標である全員でパズルを完成させる！という目標に焦点化することができた。こうした一連の作業の中で、パズルを完成させた時には達成感を全体で共有することにつながったと感じる。

事後の感想でもクラスのほとんどの児童から『できて良かった！うれしかった！気持ちよかった！』との感想があがったため、そこからなぜパズルを全員で完成させることができたのかということに迫り、友達と協力することの大切さを再確認した。また、六年生の修学旅行の折り鶴と結びつけることで、みんなで協力することが平和への一歩になるということにも気付くことができた。

まとめの際には、二国の『笑顔になるとき』を比べることで、日本は物をもらうことで笑顔になることが多いと気付いた。一方でルワンダでは物を所有することで笑顔になるということではなく、誰かと共有したり、一緒に何かをする時に笑顔になるということがわかった。そこから、途上国の経済や環境の違いについて改めて気付くことができたと思う。

最後にルワンダのお友だちからのメッセージを伝えた際には心を打たれた児童が多く、感動する子や、素直に喜びを感じる様子を見せる児童が多くいた。

ふりかえりの前に『せかいじゅうのこどもたちが』の歌を歌うことで笑顔＝平和というイメージを持ちながら授業を締めくくる事ができたと思う。ふりかえりでは、ルワンダや世界の事をもっと知りたいという児童も多く、平和や世界に興味を持つきっかけとなる授業になったと思う。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化・ふりかえり

【１時　めルワンダってどんなくにかかんがえよう。】

・ルワンダの人は家に水道がなくて、川に行っているなんて知らなかった。
・給食はどんな料理なのか知りたい。
・もっとみんなの名前を知りたい。
・サッカーボールがバナナの葉を使っていてビックリした。どうやってサッカーボールを作ったのか。
・将来の夢は何ですか。
・ルワンダの人って忙しい。
・動物の命がとても大切。
・水が美味しいのか聞きたい。
・どんなお勉強をしているのですか。
・ルワンダの国が綺麗なことがわかった。
・ルワンダのご飯は美味しいですか
・ルワンダのスーパーでは日本でも売っているものがあった。
・ルワンダの太鼓がまさか牛の皮でできていると思わなかったです

【２時　めにほんとルワンダのぬののちがいをかんがえよう。】
・ルワンダの国と日本との布の違いが分かって面白かった。
・ルワンダの布は自然の模様とか、色んな模様が綺麗だった。
・ルワンダに行きたいです。
【３時　めにほんとルワンダのあそびのちがいをかんがえよう。】
・ルワンダの遊びと日本の遊びが違うのがわかった。
・なぜ木でゴールを作っているのかがわかった。
・学校はどんな学校ですか？学校の授業はどんなことをしているのですか？
・ボールを自分で作って楽しかった。
・ルワンダはビニールをあんまり使わない国ということがわかった。
【４時　めにほんとルワンダの学校のちがいをみつけよう。】
・ルワンダの学校の給食がこんな少ない給食だったとしらなかった。
・学校の机はそれぞれカラフルだった。
・子どもたちの身長が違ってびっくりした。
・日本語じゃなくて、ルワンダ語があると思いませんでした。
・ご飯があんまり食べられなかったのがかわいそう。
・ルワンダの人に日本に引っ越していいよって言ってあげたら、喜ぶと思う。
・給食は、ほとんど同じメニューだということがわかった。
【５時　めえがおになるときってどんなときかかんがえてみよう。】
・パズルが難しかったけど、みんなで協力したからできた。
・笑うという漢字になるとは思わなかった。
・笑うの漢字の意味がわかった。
・ルワンダの人との違いが分かった。
・パズルは難しかったけど、話し合ってどんどんできるようになって嬉しかった。
・ルワンダの友だちへ。これからも一緒にいようね。
【６・７時　めいきたい！しりたい！せかいのくに！について発表しよう。】
・もっと色んな国を知ってみたい。
・自分のいいきたい国に行っていろんなことをしたい。
・世界中をまわりたい。

【途上国・異文化への意識の変容について】

（授業前）
・国と国との環境や文化、人種の違いがあることを理解できていない児童が多くいる。
・平和教育においても６年生の折り鶴作成の際の「平和」という言葉を難しく感じる児童が多くいた。・

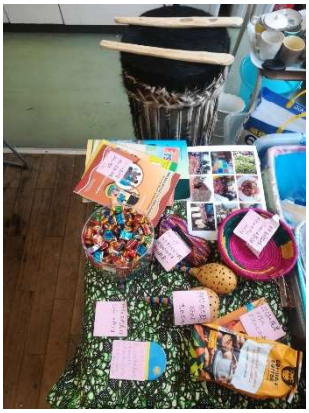
（授業後）
・世界に目を向けることができた。
・もっと色んな国を知ってみたいと思う児童が多くいた。
・毎時間のふりかえりにルワンダのお友達にたくさんの質問をすることで、ルワンダを身近に感じることができた。
・国と国との環境や文化、人種の違いについて知ることができた。
・ルワンダをはじめ、世界の国に行ってみたい！知りたい！という気持ちを持つことができた。

・食料を分けた方がいい、お金を分けてあげるなど、自分にできることなどを考え始めるきっかけとなり、途上国や異文化への興味関心をもつことができた。
・国際理解の基礎を築くことができたと思う。

【8】自己評価

1. 苦労した点	①小学校一年生という点で、既習事項が浅いため、平和や世界、途上国などについて理解できるような単元のゴール設定に苦労した。 ②ねらいとしているところを、どこまで掘り下げて授業を行うのかという点。 ③できる限り実際に触れることができるものを活用し、授業の可視化を行った点。 ④単元の中で、平和、文化、環境問題など内容が多岐にわたり理解が浅くなってしまうところがあった。１年生としては項目を絞り、取り組ませることが必要だと感じた。
2. 改善点	①既習事項が浅いため、絵本の読み聞かせなどを追加で取り入れ、世界をより身近に感じさせるようにする。 ②一時間で詰め込みすぎた部分もあるので、子どもに考えさせたいポイントを絞り、より深みのある授業にする。
3. 成果が出た点	開発途上国、世界、平和への興味関心が増えた。一年生としての国際理解の素地となることができたように思う。

添付資料：



参考資料

・こどもが　はじめてであう　せかいちず絵本　　とだ　こうしろう　　戸田デザイン教室
・きみにもできる国際交流　１～２４　　こどもくらぶ　　偕成社
・ルワンダ現地での教科書３冊

世界の出来事を「自分ごと」としてとらえよう

氏名：　木村　あずさ　　学校名：　三郷町立三郷北小学校

担当教科：　全教科　　実践教科：　総合的な学習の時間

時間数：　6時間　　対象学年：　第3学年　　人数：　118人（4クラス）

【実施概要】

<table>
<tr><td colspan="3">【1】単元のテーマ・目標：世界の出来事を知り、自分たちと関係があることに気付き、
自分にできることを考えることができるようにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">【2】
単元の評価
規準</td><td>（ア）関心・意欲・態度</td><td>ルワンダをきっかけに、世界の国々やその国の出来事に関心をもつことができる。</td></tr>
<tr><td>（イ）思考・判断・表現</td><td>世界の子どもたちの現状を知り、世界の平和や課題について考え、自分の考えを伝えることができる。</td></tr>
<tr><td>（ウ）技能</td><td>自分が継続してできる SDGs の目標を作ることができる。</td></tr>
<tr><td>（エ）知識・理解</td><td>世界の国々の子どもたちの生活や世界の平和、SDGs について理解することができる。</td></tr>
<tr><td>【3】
単元設定の理由</td><td colspan="2">教師海外研修に参加して、「平和とは何か？」「豊かさとは何か？」と改めて考えさせられた。普段日本で生活していると、今の生活が当たり前だと思っている。しかし、世界に一歩出てみると、様々な暮らしがあることに気付く。訪問したルワンダは、ジェノサイドから 25 年経ち、表向きは復興しているように見えるが、まだまだ傷跡が癒えていない。虐殺記念館や教育委員会、学校などを訪問し、現地の先生たちと交流し、国や経験は違っていても、子どもたちを思う気持ちに変わりはなく、平和の大切さを伝え、継続して取り組んでいくことは重要だと思った。研修を経て、伝えたいことはたくさんあるが、「平和とは何か？」、「豊かさとは何か？」の２点に絞って授業を考えることにした。

児童観：本校は大阪府に近い奈良県ベッドタウンに所在し、自然の豊かな環境にある。最近は人口が増え、核家族が多い。児童は、素直で優しく、好奇心旺盛である。その一方で、時代の影響を受け、個人や少人数でインターネットやゲームなどをして遊ぶ子どもが多く、攻撃的な言葉で相手を傷つけてしまったりする場面も見受けられる。また普段は学校生活において時間を取ってじっくり考え、考えたことを丁寧に友だちに伝える機会を十分に取れていないと感じている。

指導観：児童は、世界の国々や戦争について知らない子が大半である。こうしたテーマに興味をもち、視野を広げるために、１学期から戦争や平和に関する本の読み聞かせをしてきた。また一人ひとりが平和の絵を描き、クラスのみんなで一つの絵にする時間を</td></tr>
</table>

	設定した。２学期には、国語科の「ちいちゃんのかげおくり」で、主人公のちいちゃんの気持ちを考えさせると同時に、「戦争がちいちゃんから奪ったものは何か」、「ちいちゃんの願いは何か」という２点について考えさせてきた。またこの「ちいちゃんのかげおくり」の授業のあとに、教師海外研修中にルワンダの現地の子どもたちと平和について考えた絵（付箋）を使い、クラスで実践授業を行った（【4】展開計画、3 時参照）。 　本学習では、ルワンダの子どもたちが考える平和や幸せに触れることで、家族の大切さやその中での自分の役割を感じ、また、多様な社会を生きていく子どもたちに、「違い」をお互いの個性として認め合える子どもに育つような素地作りをしたいと考えた。さらに、平和のためにできることを考えさせ、その際に、話し合い、伝え合う活動を多く取り入れ、問題解決の態度を養っていきたいと考えている。

【4】展開計画（全６時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
0	世界とのつながり探し ＊子どもたちは世界と直接関わりがないと思いがちだが、実は世界とつながっていることを知る。	・ 身近にある外国製のものに出会ったら、白地図にその国とものを書き込んでいく。 （１０月２５日～１１月１５日） 朝学や給食後のすきま時間を活用する。	・世界の白地図拡大用紙 ・世界地図 ・国旗
1	ルワンダを知ろう ＊ ルワンダに関する基礎知識を学ぶ。 ＊ ルワンダに興味をもつ。	・ アフリカってどんなところ？ ・ ルワンダのイメージを共有する。 ・ 世界地図を見て、場所や大きさを確認し、国旗の意味を知る。 ・ 「こんにちは」「ありがとう」の世界のあいさつと言葉を知る。 ・ ルワンダの写真を見せて、日本と同じところと違いについて気付いたことを出し合う。 ・ ルワンダの文化紹介（あいさつ・服装・食事・学校） ・ ルワンダで実際に使われているものに触れる。	・写真 （パワーポイント） ・世界地図 ・ワークシート ・ルワンダから持ち帰ったもの
2	ルワンダのくらし （生活習慣・水・食事） ＊ルワンダの人々がどんなふうに暮らしているかを知る。 ＊自分たちの生活と似ているところや異なるところについて考える。 ＊日本の環境が恵まれていることに気付く。	・ ルワンダの子どもたちは、どんな生活をしているのかな？ ・ ジェリカンの写真を見て、何に使うものなのか予想する。 ・ 毎日子どもも大人も水くみをしていて、主に子どもたちの仕事であることを写真で知る。 ・ ２０リットルのポリタンクに水を入れたものを実際に持ち、その重さを体感する。 ・ ルワンダの一般の家庭の写真を見せ、日本との違いや気付いたことを出し合う。 ・ 食事の内容や栄養不足の子どもが多いことを知り、日本や私たちの食の現状と比べる。	・ジェリカン（２０リットルポリタンク） ・NOOTRI FAMILY ・写真 ・動画 ・三郷町立給食センターの残食量のデータ ・ワークシート

3 本時	平和について ＊ 国が違っていても、平和を願う気持ちや大切なものは共通していることに気付く。	・ １学期にかいた平和の文や絵を見る。 ・ ルワンダの小学校での交流の写真を見る。 ・ 「ちいちゃんのかげおくり」で考えた平和について想起する。 ・ カードを使って、ルワンダの子どもたちの平和や夢を想像する。 ・ ルワンダでの戦争と平和の取り組みを知る。 ・ 授業を振り返り、感想を書き、伝え合う。	・子どもたちが描いた平和の絵 ・写真 ・ルワンダの子どもたちが書いたカード ・ワークシート ・付箋
4	世界の子どもたち ＊ 先進国と開発途上国の関係を知る。 ＊ 私たちの生活や豊かさは開発途上国に支えられていて、その依存度の高さから開発途上国に支えられている。	・ お好み焼きの材料はどこから来ている？（食べ物編） ・ 私たちが使っている身の回りのモノはどこから来ている？（スマホ・テレビゲーム・服・くつなど） ・ くらべてみよう、日本と世界 （識字率･電気を使えない人の数など） ・ 世界を取り巻く課題と JICA の取り組みを知る。	・Find the Link ・どうなってるの？世界と日本　第二版（JICA） ・写真 ・ワークシート
5	SDGs ってなに？ ＊ SDGs の１７の目標を知る。 ＊ SDGs を児童の視野を広げる。	・ 国連気候行動サミットでのグレタ・トゥーンベリさんの演説を紹介する。 ・ SDGs とは何か？ 世界の未来を変えるための１７の目標であることを知る。 ・ 私たちが住んでいる三郷町も SDGs に取り組んでいることを知る。 ・ 特に、児童に関係している SDGｓを確認する。 ・ 家庭内で SDGｓの取り組みに関係のある行動をしているか調べる。	・共につくる私たちの未来　SDGs から「持続可能な社会の創り手」への一歩を（JICA） ・SDGs カード ・ワークシート
6	「自分ごと」としてとらえよう ～三北から始める SDGs～ ＊ SDGs を自分ごととしてとらえ、地域や学校という自分たちにできそうなことを具体的に見つけさせる。 ＊ その後、自分たちで作った目標に向かって取り組み、広めていく。	・ 家で SDGs に関わる取り組みをしていたか、共有する。 ・ その中から、自分が継続してできそうな SDGs の目標について､具体策を考える。 ・ 「ルワンダの子どもたちのためになること」､「家でできること」､「三郷町のためにできること」の三つの視点で考える。 ・ 個人で考えた SDGs の目標をクラスで共有する。	・共につくる私たちの未来（JICA） ・SDGs カード ・ワークシート

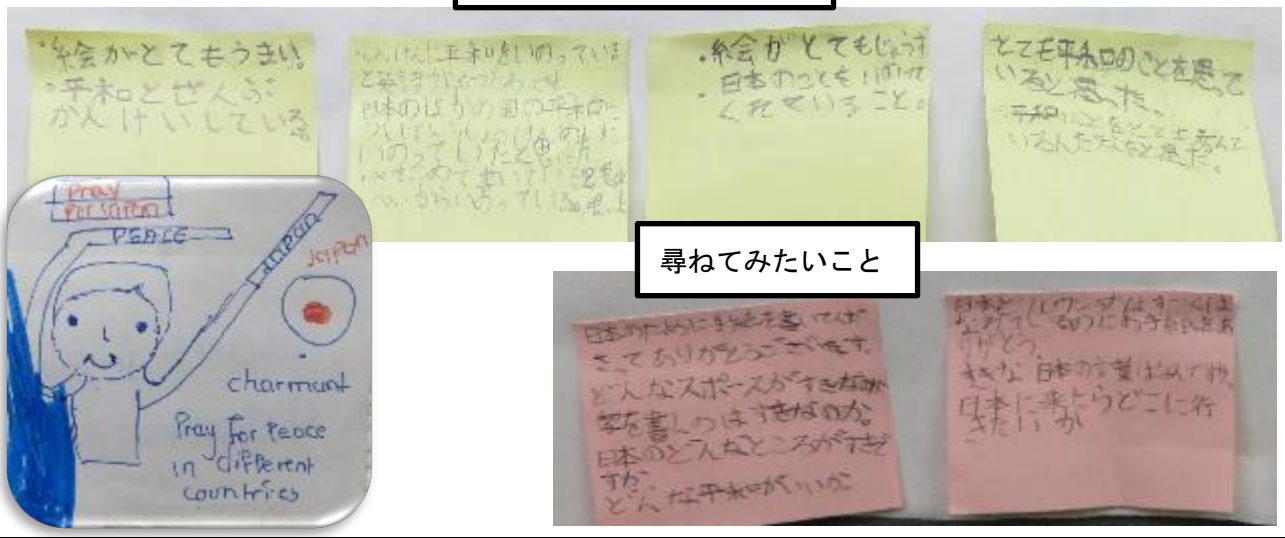
【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5分）	・ ルワンダの子どもたちの写真を見る。 ・ １学期に描いた自分たちの平和の絵を思い出す。	・自分たちが一生懸命考えて描いた 絵を見て、「ルワンダの子どもたちから返事が届いたよ。」と、学	・子どもたちが描いた平和の絵 ・写真 ・ワークシート
	ルワンダの子どもたちにとっての平和とは？ ～返事を読み取ろう～		
展開 （３２分）	・ ルワンダの子どもたちが書いてくれたカードについて考える。 ・ 班ごとにカードのメッセージから、感じたことや気付いたこと、尋ねてみたいことを書いて班で共有する。 ・ 班ごとに自分たちが感じたことを発表して、クラスで共有する。	・ カードの写真４種類×２セットを用意し、班ごとに違うカードを見て考えさせる。 ・ 初めは、英語のメッセージのまま、絵から感じ取らせる。 ・ その後、日本語の意味を書いたカードを渡す。	・ルワンダの子どもたちが書いたカード ・付箋
	・ ルワンダでは何があったのか、本を参考に理解する。 ・ ルワンダの大人たちが、現在平和のために努力していることを知る。 ・ ルワンダの子どもたちの平和の取り組みを知る。	・ ルワンダでのジェノサイドの歴史を簡単に伝え、現在の平和の取り組みを理解できるように伝える。 ・ 日本と同じで平和についての取り組みを知り、平和の大切さや平和を努力しながら守っていることを伝える。	・「ルワンダの祈り 内戦を生き延びた家族の物語」 後藤健二　筆 ・写真
まとめ （8分）	・振り返り 今日の勉強で学んだことを書く。 ・クラスで共有する。		

【授業実践の様子】

〈ルワンダからの手紙を読み取る様子〉
習いたてのローマ字表を出して、一生懸命読もうとしていました。

感じたこと・気づいたこと



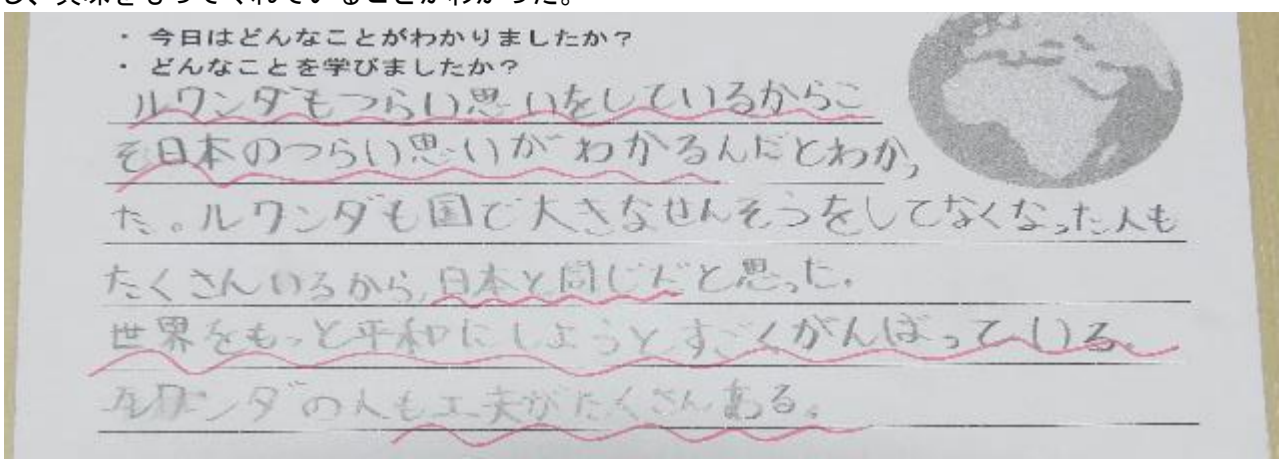
尋ねてみたいこと

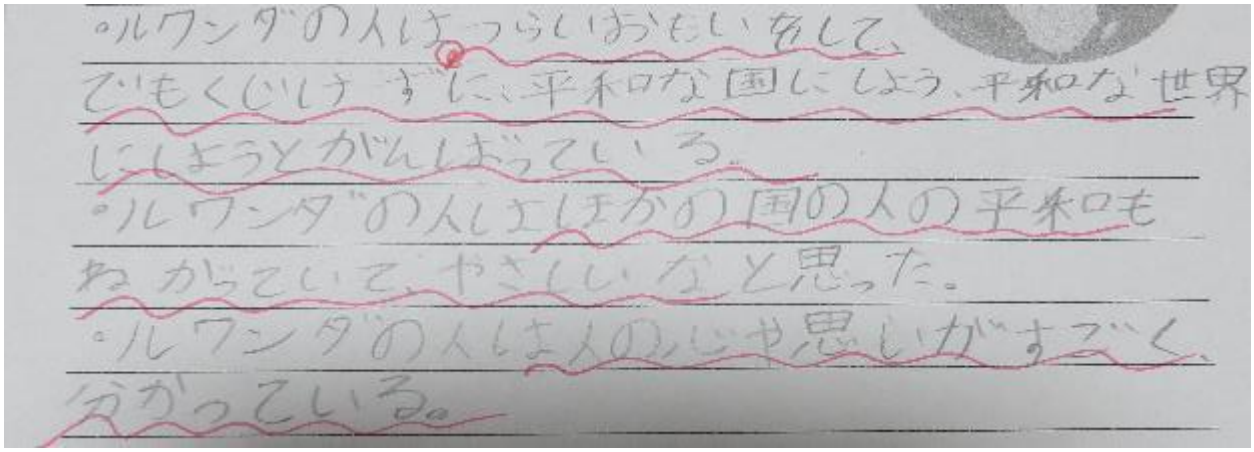
【6】本時の振返り

１学期に児童全員が考えて描いた「平和の絵」に対して、ルワンダの子どもたちが、「自分たちにとっての平和」を真剣に考えて返事を書いてくれたことに大変嬉しそうな様子を見せていた。そのおかげで、本時の授業にぐっと入りこめたと思う。

３年生の児童に、ルワンダの歴史やジェノサイドを伝えることが大変難しかった。できるだけ簡単なわかりやすい言葉を使い、写真や本を活用してイメージできるように心がけた。

ルワンダの子どもたちが書いてくれたメッセージ読み取りでは、児童からルワンダの子どもたちへ尋ねてみたい内容がたくさん出てきた。子どもたちの方が、国の違いなど関係なく、ルワンダを身近に感じ、興味をもってくれていることがわかった。

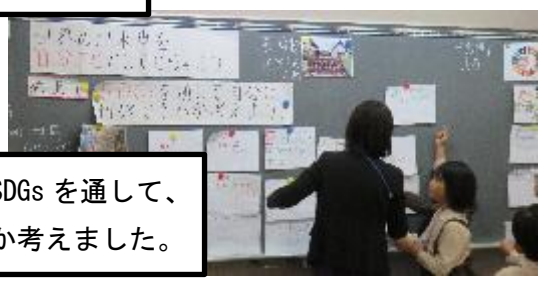



・ルワンダの人はつらいおもいをして、
でもくじけずに、平和な国にしよう、平和な世界
にしようとがんばっている。
・ルワンダの人は、ほかの国の人の平和も
ねがっていて、やさしいなと思った。
・ルワンダの人は人の心や思いがすごく
分かっている。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

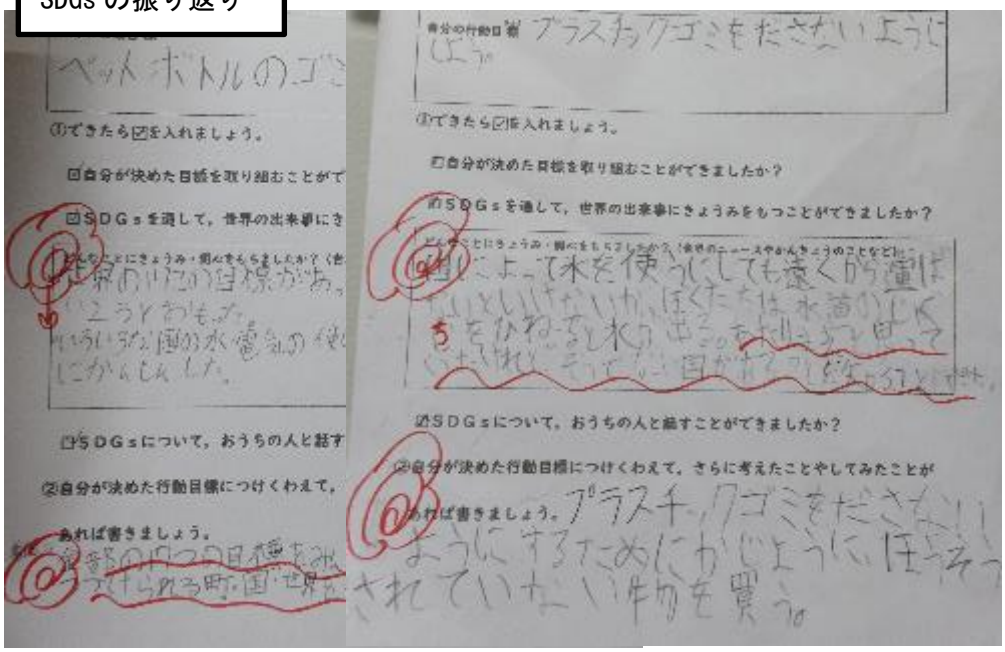
自分たちの町も SDGs に取り組んでいることを確認しました。

普段家の中でしていることが、実は SDGs につながっていたんだね。



参観では、おうちの人と一緒に、SDGs を通して、自分たちに何かできることはないか考えました。

SDGs の振り返り



自分たちの行動目標

肌色でもこんなにたくさんの色があるんだね！

私たちの身の回りのものは、世界のいろいろな国から来ているんだね。

ペーパービーズを作りました！

エコの観点から、広告を巻いて作りました。
感謝の気持ちを込めて、プレゼントしました。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- 世界の国々に興味をもつようになった。
- 自分たちが持っている文房具の中で、下敷きや筆箱、鉛筆に国旗の柄があると、ルワンダを探して教えてくれるようになった。
- SDGs を学んでから、自分たちにできることを意識するようになった。
- 特に給食を残すことが減ってきた。なるべくみんなで食べようとしてくれるようになった。
- 「残食を減らしていくと、SDGs の 17 の目標を達成できるね。」と子どもたちから言ってくれるようになった。

【途上国・異文化への意識の変容】

（授業前）

- 外国と言えば、アメリカ・中国・韓国などテレビでよく見る国しか知らない児童が多かった。
- アフリカって、どんなところ？どんなイメージ？と聞いてみると…
  →にぎやかで楽しい陽気なイメージ・暑そう・サバンナがある・肌が黒い・動物が多い・貧しい・自然が多そう・ラグビーが強い・野生のゾウがいる

（授業後）
・　国によって感じ方や考え方が違う。
・　肌の色は人によって全然違う。
・　世界には、苦しんでいる人がどれだけ多いのかがわかった。
・　栄養が十分じゃない人がたくさんいることがわかった。
・　日本は学校に行けることが当たり前だけど、がんばろうとしている国（途上国）は、学校に行けない人もたくさんいて、子どもも働いてお金をもらっていることがわかった。

【8】自己評価

1. 苦労した点	・　３年生にルワンダの歴史やジェノサイドを教えるかどうか大変迷った。歴史を習っていない子どもたちに、どうすれば伝わるか、わかりやすい言葉に変換することが大変難しかった。 ・　SDGs の内容も３年生には難しいので、世界のことを知った上で、少しでも興味を持ってもらえるように導入の仕方に苦労した。
2. 改善点	・本時の授業は、「平和の絵」を実際に描いた現在のクラスでしか使えないので、平和の絵とルワンダの子どもたちの付箋（手紙）の導入の仕方を変更する。 ・　SDGs を導入する際に、時間が足りなくて急ぎ足になってしまった。今後は、もう少しわかりやすい例を出して、児童の理解を深めたい。
3. 成果が出た点	・　子どもたちが世界の出来事に関心をもつようになった。 ・　ルワンダをきっかけに、世界の国々に興味をもち始めた。 ・　今ある当たり前の生活をありがたく感じたり、平和の大切さを考えたりできるようになってきた。 ・　SDGs を通して、環境のことを考えたり、食べ残しを減らしたり、自分ごととして考えられるようになってきた。

参考資料：

・『ちいちゃんのかげおくり』
作者：あまん　きみこ　出版社：あかね書房　発行年：１９８２年
・『さがしています』
作者：アーサー・ビナード　出版社：童心社　発行年：２０１２年
・『ルワンダの祈り−内戦を生きのびた家族の物語−』
作者：後藤　健二　出版社：汐文社　発行年：２００８年
・『わたし８歳、カカオ畑で働きつづけて。～児童労働者とよばれる２億１８００万人の子どもたち～』
著者：岩附由香・白木朋子・水寄僚子（児童労働を考える NGO=ACE）
発行所：合同出版株式会社　発行年：２００７年
・『未来の授業　私たちの SDGs 探究 BOOK』
発行者：東　彦弥　発行所：株式会社宣伝会議　発行年：２０１９年
・Peters World Map
・SDGs 入門　JICA
・Find the Link どうなっているの？世界と日本　第二版　JICA

平和 ～ルワンダを通して～

氏名： 中 陽佑　　学校名： 奈良市立都祁小学校

担当教科： 外国語 図工 書写　　実践教科： 外国語 図工 書写

時間数： 11時間　　対象学年 ： 小学校 6 年生　　人数： 6-1 23 名 6-2 22 名

【実施概要】

<table>
<tr><td colspan="3">【1】単元のテーマ・目標：</td></tr>
<tr><td colspan="3">・ルワンダの文化や風習、歴史について学ぶ。
・ルワンダの児童が考える平和について知り、自らが考える平和とは何か再考する。
・自分が考える平和について、伝えたいことを色紙や習字の形にまとめ、交流する。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">【2】
単元の評価規準</td><td>（ア）関心・意欲・態度</td><td>平和の学習に、自ら進んで取り組むことができている。</td></tr>
<tr><td>（イ）思考・判断・表現</td><td>自分が考える平和とは何かについてまとめ、クラスで伝えることができている。（発表・ワークシート）</td></tr>
<tr><td>（ウ）技能</td><td>自分が考えた平和について、伝えたいことを平和の色紙や習字の形にまとめることができている。（平和色紙　習字）</td></tr>
<tr><td>（エ）知識・理解</td><td>過去にルワンダで起こったことやルワンダの文化・風習について理解している。（発表・ワークシート）</td></tr>
<tr><td>【3】
単元設定の理由</td><td colspan="2">今回、教師海外研修への参加にあたり、研修を通じて学んだことを、平和をテーマにした学びの中で生かそうという思いを持っていた。
本校の 6 年生は修学旅行で広島を訪れる。修学旅行においての平和学習と関わらせ、ルワンダでの出来事を伝え、今自分たちが「広島」を通して知る出来事は、何も日本だけではなく、世界各地で起こってきているのだということを知り、考えさせたいと考えた。
ルワンダにおけるジェノサイドは 1994 年、今から 25 年前に起こっており、広島と比べると写真等の資料も多く残っているため、より平和に関して深く学ぶことができる。そのような学びが、児童らが、日本国内だけでなく、世界にも目を向けるようなきっかけとなると考えている。
ただし、ジェノサイドの出来事を伝えることが、ルワンダが単に怖い国だというイメージを持たせることに繋がってほしくはない。そのために、単元の前半では、ルワンダの文化や風習、そして児童らにとって身近な子どもたちの生活について伝えることで、ルワンダという国に親近感を持たせたい。
単元の後半では、ルワンダのウムチョムイーザ学園の児童がどのように平和について考えているのかを知ることで、自分たちにとって平和とは何なのか、ということに改めて迫らせる。単元の最後には、自分の考える平和について、伝えたいことを色紙や習字の形で表し、それをクラスで互いに交流させることで、児童ら自身がより平和について理解を深めることができるようにしたい。</td></tr>
</table>

【4】展開計画（全 11 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	ルワンダについて学ぶ ねらい ルワンダの文化や風習を紹介し、ルワンダという国に興味を持たせる。	・写真や実物を見ながら、ルワンダの町の様子や文化、風習について知る ・それらと日本を比較し、ルワンダと日本との共通点や相違点を感じる	・写真 ・パワーポイント資料 ・タブレット端末 ・ワークシート
2　3	ルワンダの学校の様子や、現地の子どもたちの生活について学ぶ ねらい 自分たちと同じルワンダの子どもたちが通う学校の様子や、普段の生活の様子を知り、比較する。	・ルワンダの学校や小学生の写真を見せる ・各グループに写真を渡し、日本の学校との共通点・相違点を話し合い、発表させ共有する。 ・NHK for school を視聴し、一日の流れの言い方を復習する ・自分たちの一日の流れを英語にして言う ・ルワンダの児童の一日の流れを紹介して自分たちのものと比較し、違いに気付く	・写真 ・パワーポイント資料 ・NHK for school ・MY DAY 絵本 ・ワークシート
4	ルワンダの歴史について学ぶ ねらい ルワンダで過去に起こったジェノサイドについて知らせ、戦争や紛争の被害が、日本だけではなく他の国でもあったことを知る。	・ロイロノートを使って導入をする ・キガリミュージアムの子どもの写真を見せる ・ホテルルワンダの DVD を視聴する ・ペアトークやロイロノート等でお互いの考えを交流する	・写真 ・パワーポイント資料 ・タブレット端末 ・DVD「ホテルルワンダ」 ・ワークシート
5 本時	平和とは何かについて考える ねらい ルワンダの児童が考える平和について知り、自分たちにとって平和とはどんなことなのか考える。	・ロイロノートを使って導入をする ・ルワンダの児童が考える平和について、写真を使って紹介する ・自分が考える平和について考え、タブレット端末に記入する ・ロイロノートを使って、ペア、学級で交流する	・パワーポイント資料 ・タブレット端末 ・写真（ウムチョムイーザ学園の児童） ・掲示資料 ・ワークシート
6	自分が考える平和について、習字に表す ねらい 前時考えた内容を元に、自分が考える平和について再考し、習字に表す。	・前時の学習を振り返る ・自分が考える平和について、半紙に記載する内容を考え、決める ・作品を完成させる	・習字セット ・漢字辞典 ・国語辞典

7 8 9 10	平和色紙を作る ねらい 自分自身が考える平和について、広島で見た景色を背景に、伝えたいことを色紙にまとめる。 だいち小の児童に見せることを念頭に置き、相手意識を持って作成する。	・自らが考えた平和について、伝えたいことを色紙に書くためのレイアウトを決める ・下書きをする ・清書をする （鉛筆　絵の具　色鉛筆　マイネームペン　ボールペン）	・色紙 ・下書き用紙 ・タブレット端末 ・絵の具セット ・色鉛筆 ・マイネームペン ・ボールペン
11	平和色紙の内容を交流する ねらい 自分の考えを整理して伝えるとともに、他の児童が考える平和についても知り、自らの考えを深める。	・平和色紙をペア、グループで交流する ・色紙を持って、個人写真を撮る	・ワークシート ・タブレット端末 ・デジタルカメラ

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （15分）	ロイロノートを使ってのワークショップ ・修学旅行の学びを色で表すと何色だろう？ 広島での平和学習・ルワンダの事前学習について思い出す ・今、自分が持つルワンダのイメージは何色だろう？	前時までの学習を生かしながら活動するよう伝える ペアトークの後、こちらで児童らの意見をつなげ、広げるようにする 写真等を使い、これまでの学習を振り返る 前回考えたイメージとも比較しながら考えさせる。	・パワーポイント資料 （スライドショー） ・タブレット （ロイロノート）
	自分が考える平和って何だろう。		
展開 （20分）	ルワンダの児童が考える平和について知る 日本にいる自分が考える平和とは何か、タブレット端末に書く ペアで伝え合う	パワーポイントや板書を使い、内容をまとめていく これまで見てきたものと比較して考えるよう伝える 自分の考える平和と他者の考える平和を交流し、自分の考えを再度意識させる	・パワーポイント資料 （スライドショー） ・掲示資料 ・タブレット （ロイロノート）

	全体で意見を発表し、児童らの意見を整理する（マッピング）	※相手の意見を否定しないよう促す	
まとめ （10 分）	本時の振り返りを書く その後、交流する。	ワークシートにまとめ、交流を行わせる	・ワークシート

【授業実践の様子】

これまでの学びを色で表す

ルワンダの子どもたちが考える平和を学ぶ

自分たちが考える平和とは何か

タブレット端末を１人１台使用して学習

【6】本時の振返り

本時は、本校 6 年生児童が修学旅行から帰ってきて、最初の外国語授業であった。そのため、まずは、修学旅行の学びがどのようなものであったか、タブレット端末を使って各自に色で表させた。また前時に学習したルワンダの虐殺の歴史についても振り返りを行い、それらを学習した今、各自が思うルワンダのイメージについても色で表させた。前時にそれぞれを色で表す活動をしていたため、この学習を経てどのように自分自身の考えが変わったのか、ということを感じ、深めさせることができた。

次に、ルワンダの児童がどのようなことを平和と感じるのかについて予想させた。実際に現地で、ウムチョムイーザ学園の小学校 6 年生の児童らに「What is PEACE for you?」という質問をし、それに対する答えを書いてもらった写真を見せて学習を進めていったが、ルワンダの児童が書いてくれた Sharing(分け合うこと)や Harmony(調和し協力すること)などは日本の児童の予想からは出て来なかったため、印象に残ったようであった。

その後、自分たちが考える平和はどのようなものかについて考えさせた。児童らは、これまでのルワンダに関する学習での学びや、広島を通した平和学習の学びを生かして、しっかりと考えることができていた。タブレット端末を一人一台使用して、そこに自分の考えを書き込ませ、その考えをロイロノートというソフトで教室のテレビで共有することで、他の児童の考えと自分のものとを比較することができ、自分の考えを深めることにもつながった。

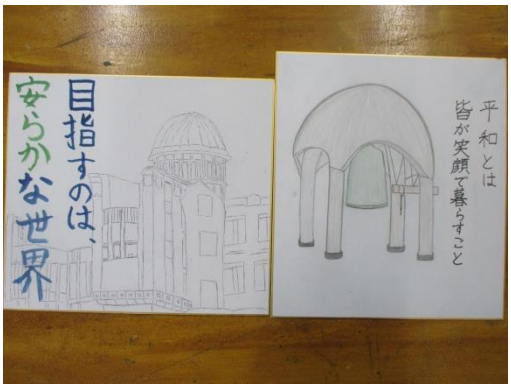
【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

本単元の授業を進めていくに当たり、児童らには毎回の授業後に振り返りを書かせ、その時間の学びや自分が感じたことを文字にしてまとめさせるということを続けてきた。単元の学習が進んでいくにつれ、児童らが書く振り返りの内容や量も、当初より深まりが見られるようになった。

児童らの感想からは、「授業前は、戦争は日本だけ嫌な目にあっていると思っていたが、授業を受けて、世界のあちこちで内戦や戦争をしているということが分かった。」「授業を受けて、人の命の大切さやルワンダの子たちのことも知れて、自分の中でも少しは受ける前より変化した。」「授業を受ける前は戦争や争いがだめだということは分かっていたけれど、具体的なことは分からなかった。でもこの授業を受けた今では、本当の戦争の悲しみ、恐ろしさが分かったし、自分の今までの行動を見なおそうと思ったところもあった。」など、本単元の学習の学びが、児童らの中でしっかりと消化され、生かされていることが読み取れた。

また、図工科で色紙作品づくりに取り組んだ際には、広島への修学旅行での平和学習や、本学習を通した学びを生かし、どの児童も真剣に取り組むことができていた。作成した色紙は、他校との交流用の資料作りの他に、授業参観での発表にも活用した。

図工科の授業で作成した平和色紙



【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

本単元の学習を全て終えた後、児童らに改めて学習を振り返らせ、感想を書かせた。その中からは、児童らがこの学習を通して様々なことを学び、考え、深めた様子が読み取れた。またルワンダを題材とした本単元の学習に、前向きに取り組んでいた様子も読み取れた。以下にその一部を示す。

〇ルワンダのことを知れてよかった。ルワンダの子の笑顔を消したくないから、二度と戦争は起こってほしくないと思った。

〇今のルワンダは建物がたくさん建っていて平和だと思うけど、昔のルワンダではすごくひどいことが起こっていて、ひどい殺され方をされたり、したりしていたことを知り、今はしてはいけないと思った。小さい子供まで殺されていて、まだまだ人生があったのにと思った。

〇昔は、日本と同じように子どもも大人も関係なく殺されていた歴史があるのに、日本もルワンダもここまで復旧したりして、あきらめなかったことがすごいと思った。

〇怖い歴史もあるけど、人が優しそうだった。大変そうだけど楽しそうにしていて、ルワンダの人はすごいと思った。一回行ってみたいなあと思った。

〇今のルワンダは平和だと思った。人が明るい感じだったから、幸せに暮らしていると思った。つらい過去はあったけど、それを乗り越えられたんだと思った。

〇昔は日本以外にも苦しい思い、悲しい思いをしている場所があったことを初めて知ったので、私は国内でも、違う国とも争いを起こさず、これからもみんなが楽しめる町にしたいと思った。

〇話や映像を見たり聞いたりして、戦争の恐ろしさが何度も心に刻まれたこの学習は、怖い気持ちで心に残ったけれど、今の平和が尊いということも教えてもらった。この学習をしてよかったと思った。

【途上国・異文化への意識の変容】

（授業前）

本授業実践の第１時で「アフリカのイメージは？」と児童らに問いかけたところ、サバンナ、砂漠、ゾウ、黒人、あつい、などの表面的なイメージが多かった。日本から地理的に遠く離れた場所であり、自らが直接アフリカと関わった経験を持つような児童もいなかったためだと考えられる。1 学期に国際理解 DAY という学校の取り組みにおいて、ルワンダを紹介し自分が夏に行くことを伝えたが、紹介した全 11 カ国のうちの１つにすぎなかったため、児童らにとってはあまり印象に残っていなかったようで、この授業実践を始めた当初は、反応は薄かった。

（授業後）

アフリカのイメージ、そしてルワンダのイメージを授業当初に色で表現させた。授業実践を進めた後に再度同じ質問をすると、児童が表現する色は大きく変化していた。単色だったものを複数の色で表現する児童が増えたり、なんとなく選んでいた色が自分なりの理由を持って選び表現できるようになったりしてきていた。

また、日本と異なる点のみならず、共通点についても、学習を進める中で多くの児童が気付くことができた。肌の色や生活のスタイル等は違っても、日々の遊びや学校での生活に共通点を見つけ、遠く離れていても、小学生として同じ部分がたくさんあることに気付いた児童も多くいた。自分もルワンダに行ってみたいという感想を書いた児童もおり、児童らの目を広く世界にも向けさせることができたという点も、本授業実践の成果の一つであると言える。

【8】自己評価

1. 苦労した点	1学期に、本校の取り組みである国際理解DAYで、ルワンダのことに触れて布石を打っておいたものの、やはり日本から遠いアフリカの国ということで、児童らも本単元を学習し始めた2学期当初は、あまりイメージがわかない様子であった。現地から持ち帰った現物資料や写真等を見せることで、興味・関心を持たせることができた。 ジェノサイドについては、小学生に具体的な内容を提示する難しさがあった。虐殺記念館等で資料収集はしたものの、虐殺の直接的な描写や写真を見せることは難しいと判断し、ホテルルワンダの映画の中で、関連するシーンを紹介することでその内容に変えた。また虐殺で殺された児童らの写真を見せ、自分たちとの共通点を感じさせたうえで話を進めたことで、「自分ごと」としてとらえられる児童が増えたことは大きな成果だと言える。ただ、このような内容を、小学生が深いところまで理解をするには時間がかかると感じた。
2. 改善点	今回の研修で行ったムトボで見た衝撃・感じたことを伝えたかったのだが、ルワンダの歴史的背景から時間をかけて説明する必要があったため、時数の都合で見送ることとなった。小学生には難しい部分もあるのだが、今後この内容を改めて実践する場合は、それらの内容も入れてカリキュラムを組むことができればと思う。
3. 成果が出た点	勤務校の平和学習は、広島へ行く修学旅行を軸にしたものであったが、ルワンダの事例を紹介することで、児童の目を日本だけでなく世界にも向けることができたと思う。それで終わりではなく、自らにとって平和とはどのようなことなのかを改めて考えたこと、ルワンダの小学校の児童が考える平和についても知ったこと、これらを通して、児童ら自身の考えも深めることができた。また日本から遠く、児童らが表面的なイメージしか持っていなかったアフリカのルワンダに関して、授業実践を進める中で興味を持つ児童が増え、授業を楽しみにしてくれるようになった。ルワンダの子どもたちと日本に住む自分たち、異なる部分はもちろんだが、似ている部分や共通する部分についても考えさせる機会を持つことができたことは、今後にもつながるだろう。
4. 備考（授業者による自由記述）	ルワンダについて、平和をテーマとして取り上げ、6年生で授業を進めてきたが、現地で見聞きしてきたこと、自分が経験してきたことについては、国際理解教育的な観点で、他学年でも授業を行い、児童らに伝えていきたい。 また、今回の実践で取り上げることができなかった部分についても、今後実践を進めていきたい。具体的には、2020年1月に本校で行う防災教育DAYと関わらせて、ルワンダにおいてドローンを活用した血液輸送の取り組みを進めているジップライン社や、ドローンを活用したJICAの国際貢献の取り組みに焦点を当て、それらの実情を紹介する授業を行う予定である。

参考資料：

DVD「ホテルルワンダ」

本　「MY DAY」

NHK for School（https://www.nhk.or.jp/school/）

世界とつながろう

氏名：逸見　学　　学校名：神戸市立だいち小学校

担当教科：全教科　　実践教科：総合的な学習の時間

時間数：4時間　　対象学年：5年生5クラス　　人数：193人

【実施概要】

<table>
<tr><td colspan="3">【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：世界とつながろう</td></tr>
<tr><td colspan="3">・日本以外の国の文化や生活、課題について考え、行動しようとする態度を培う。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">【2】
単元の評価
規準</td><td>（ア）よりよく問題を解決する資質や能力</td><td>開発途上国の現状を正しく把握し、解決策を考えることができる。</td></tr>
<tr><td>（イ）学び方やものの考え方</td><td>日本との相違点に気付き、自分の考えをまとめ発表することができる。</td></tr>
<tr><td>（ウ）主体的、創造的、協同的に取り組む態度</td><td>開発途上国の学習を通して、自分から調べたいという意欲の高まりや友達と共に学習しようとしている。</td></tr>
<tr><td>（エ）自己の生き方</td><td>開発途上国でくらす人々の考えを知り、自分の生き方を見つめなおすことができる。</td></tr>
<tr><td>【3】
単元設定の理由

✓ 児童/生徒観
✓ 教材観
✓ 指導観
✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容</td><td colspan="2">本校は、所在する神戸市と繋がりの深い国の文化や遊び等を各学年で学習をしてきている。特に韓国やベトナムについての学習はこれまでにも行ってきた。しかし、その他の国についての学習は、ほぼ行っていない。そこで今回の研修先ルワンダを題材として、国際協力や文化や学校の様子について学習する。神戸市は首都キガリ市と経済交流を行っており、これからルワンダを身近な国として子どもたちに感じてもらえるようにと考えた。加えて、本学年の児童は社会科に興味のある児童が比較的多く、輸出入の学習や産業学習で外国とのつながりを見つけることに意欲的に取り組む児童も多い。社会科で学習した国を地図帳で調べる等、海外の国への興味関心は高い。そこで、外国とのつながりには、貿易や文化、スポーツだけでなく「国際協力」というものがあることを伝え、ＪＩＣＡの活動を題材にすることで、先進国と開発途上国という違いがあることを理解させたい。そして、開発途上国の実際を見て、実際の様子を知ることで、来年社会科で国際協力を詳しく学ぶときの一助となると考えた。
「世界とつながろう」というテーマには多くの国に興味をもち、自分が当事者として何かできないか考えてほしいという思いを込めた。
授業では、ルワンダの様子をできるだけ分かりやすいように、写真の資料を使用しクイズ形式を用いることで、ルワンダに興味をもてるようにした。その中で、日本とルワンダの相違点や共通点について、ワークシートで考えさせるようにした。また、実際の教科書やジェリカンに見立てた20Ｌタンクを運ぶ等の体験をすることで、ルワンダの子どもたちの様子を詳しく理解させるようにした。</td></tr>
</table>

【4】展開計画（全　４時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「世界とのつながりについて考えてみよう。」	１．これまでにどんな国とのつながりを学習してきたか出し合う。 ２．世界とのつながりにはどんなつながり方があるか考える。 ・貿易 ・文化（韓国のあそび等） ・スポーツ（オリンピック等） ・募金 ・移住 ３．日本が取り組む国際協力について予想する。	・パワーポイント
2	「国際協力の現場を知ろう」	１．開発途上国について知り，どんな国際協力があるか出し合う。 ２．JICA の活動について知る。 ・コーヒーバリューチェーン ・高等技術専門学校 ・水の防衛隊 ３．ＪＩＣＡの協力について感想を書く。	・パワーポイント
3	「ルワンダのくらしを知ろう」	１．ＪＩＣＡが支援しているルワンダちという国はどんな国なのかを出し合う。 ２．ルワンダの概要を知る。 ３．ルワンダのくらしを知る。 ・なんでも頭に乗せて運ぶ。 ・給水をしている。	・パワーポイント ・バナナの葉で作ったサッカーボール ・民族衣装 ・特別支援学校児童制作の置物やお皿
4 本時	「ルワンダと日本の学校をくらべてみよう」	１．ルワンダの学校のイメージを出し合う。 ２．学校の様子を知る。 ・時間割を作ってみよう。 ・給食を予想してみよう。 ・教科書を見てみよう。 ３．ルワンダと日本の同じところ、違う所をグループで話し合う。 ４．ルワンダの学校を学習してみて、感想を書こう。	・パワーポイント ・ワークシート ・20L のタンク ・ルワンダの教科書

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5 分）	１．ルワンダの学校のイメージを出し合う。	・ルワンダがどんな国かを想起するために、前時の学習を振り返る。	
	ルワンダと日本の学校をくらべてみよう		
展開 （20 分）	２．学校の様子を知る。 ・時間割を作ってみよう。	・今まで学習したルワンダの様子を振り返ることで、日本での時間割ではなく、ルワンダの時間割を作っていることを意識させる。 ・日本とルワンダの同じところ、ちがうところを意識させる。	・ワークシート
	・給食を予想してみよう。	・給食は子どもが成長をする上で、栄養を得るためのものということを理解させてから予想させる。 ・給食が一品しかないことで、かわいそうという感想ではなく、なぜ少ないかを考えさせる。	
	・教科書を見てみよう。	・日本の教科書の資料をプリントし、比較しやすくする。	・教科書(道徳)
	３．ルワンダと日本の同じところ、違う所をグループで話し合う。	・事実だけでなく、なぜ違うのか考えられるように助言する。 〇ルワンダと日本の違いに気づき、理由も考えて話し合いに積極的に参加することができた。	
まとめ (10 分)	４．ルワンダの学校を学習してみて、感想を書こう。	・「なぜ」を意識しながら振り返らせるように助言する。	

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）

①授業風景１

②本時で使用したワークシート：ルワンダの時間割表を考える

③授業風景２

【6】本時の振返り

各テーマにおける内容が盛りだくさんで、一つの内容を深めることができなかった。内容は一つに絞り、児童がもう少し考える時間を設けることが必要だった。児童の感想は、小さな気付きがあるのみで、これから自分たちが何かアクションを起こすという所まで考えさせることはできなかった。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

・予想以上に食べ物があることがわかった。海には面していないけど、川があるので魚はそこで取っているのかなと思った。
・自分たちのくらしとくらべて、家をつくるためのざいりょうや、家の中がちがっておどろきました。
・いもが主食とかサッカーボールがバナナの皮をかんそうさせて作ったものだと知ってびっくりした。ぼくも一回ルワンダにいってみたいと思いました。
・ルワンダはもっとまずしくて、まんぞくするほど食べ物が食べられていないと思ったけど、市場やスーパーに食べ物があって安心しました。
・ぼくは、最初もっとまずしく、スーパーとかでも小さく豆とかしか売ってないのかと思いました。でも食生活には困らなさそうだったので安心しました。
・ルワンダは意外とよたかできれいにされているし、すごかった。自分たちのくらしと比べたら、ちょっとまずしいけど、思っていたよりみんな元気だった。
・開発途上国でも車や食べ物がないというわけではないということがわかりました。

・ルワンダという国は、すごく明るそうな国で野菜などもいっぱいありいろいろな食べ物があった。初めて知ったことは頭の上にいろいろなものを乗せていること。自分たちのくらしと比べてすごくちがうくらしをルワンダの人たちはしているということがわかった。
・ルワンダという国はまずしい国だと思ったからす勉強するのがしんぱいだったけど、意外にごはんがいろいろあるから安心した。また、ルワンダの子たちと会ってみたいと思った。ルワンダでがんばっている子がいると気づいて、自分もがんばろうと思った。
・20 年くらい前に国の中での戦争があったと聞いて、よく今があるなと感心しました。それと、もし、戦争（国の中の）がなければ日本みたいに良い国！？になっていたかな？と思いました。
・開発途上国ともっと協力していきたい。
・もっと開発途上国のことを知りたい。

【途上国・異文化への意識の変容】

（授業前）
・神戸市民にとって馴染み深い、韓国やベトナムの文化や暮らしについての関心はあり、また、ラグビーワールドカップの影響で出場国は言えるという児童もいた。また社会科の輸出入の関係国について関心の高い児童が多い。

（授業後）
・開発途上国への興味関心が高まり、アフリカ大陸の国々にも興味をむけるようになった。また、ルワンダの文化や学校教育に触れることで、国は違っても意外と日本と同じ点、また大きく違う点にも気付き、自分たちの環境が恵まれていることにも気付いていた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	・ルワンダを題材にするときに、ジェノサイドをどのようにして子どもたちに伝えたら良いのか悩んだ。そのため、今回は開発途上国の一つとしてのルワンダという扱い方になった。その中で、ジェノサイドについては、ルワンダ国内での戦争という形でしか伝えることが出来なかった。ルワンダでの学びを子どもたちに伝えるために噛み砕くことが難しく、実際には浅い内容になってしまった。
2. 改善点	・2 学期の実践授業では、一つの開発途上国の現状を知るだけの内容になってしまい、児童らが自ら考え、行動に移すまでを実践することができなかった。この課題を 3 学期に再考し、子どもたちが自分で考えアクションを起こせるようにする。 改善内容 ・追加 6 時間を設定し、10 時間単元として行う。追加する内容は、他の開発途上国について調べる、そして各国の課題を発表し、自分たちができる事を考え、校外に発表する機会を設ける、など。

3. 成果が出た点	・主に韓国やベトナム、先進国のことについての興味が多かったが、その他開発途上国にも興味を持つようになった。 ・ルワンダの暮らしの様子をみて、自分たちのイメージする開発途上国のイメージとのギャップや実際の課題について考えることができる児童が増えた。また、開発途上国と協力していきたいという意見もみられた。

添付資料：

ワークシート

・世界とつながろう～ルワンダってどんな国？～

・世界とつながろう①

・今まで学習した国を思い出そう

参考資料：

中地フキコ『ルワンダに教育の種を～内戦を生きぬいた女性・マリールイズの物語～』, かもがわ出版, 2011 年

どうなってるの？世界と日本　第二版　　独立行政法人国際協力機構

世界とつながろう～ルワンダってどんな国？～

５年［　　］組　名前〔　　〕　Ｎｏ．３

ルワンダの国について、初めて知ったこと・自分たちのくらしと比べて感じたこと・おどろいたこと・もっと知りたいことなど感想を書きましょう。

世界とつながろう①

５年　　組　　名前（　　）

２．世界とのつながり方には，どんなつながりがあるか考えてみよう。

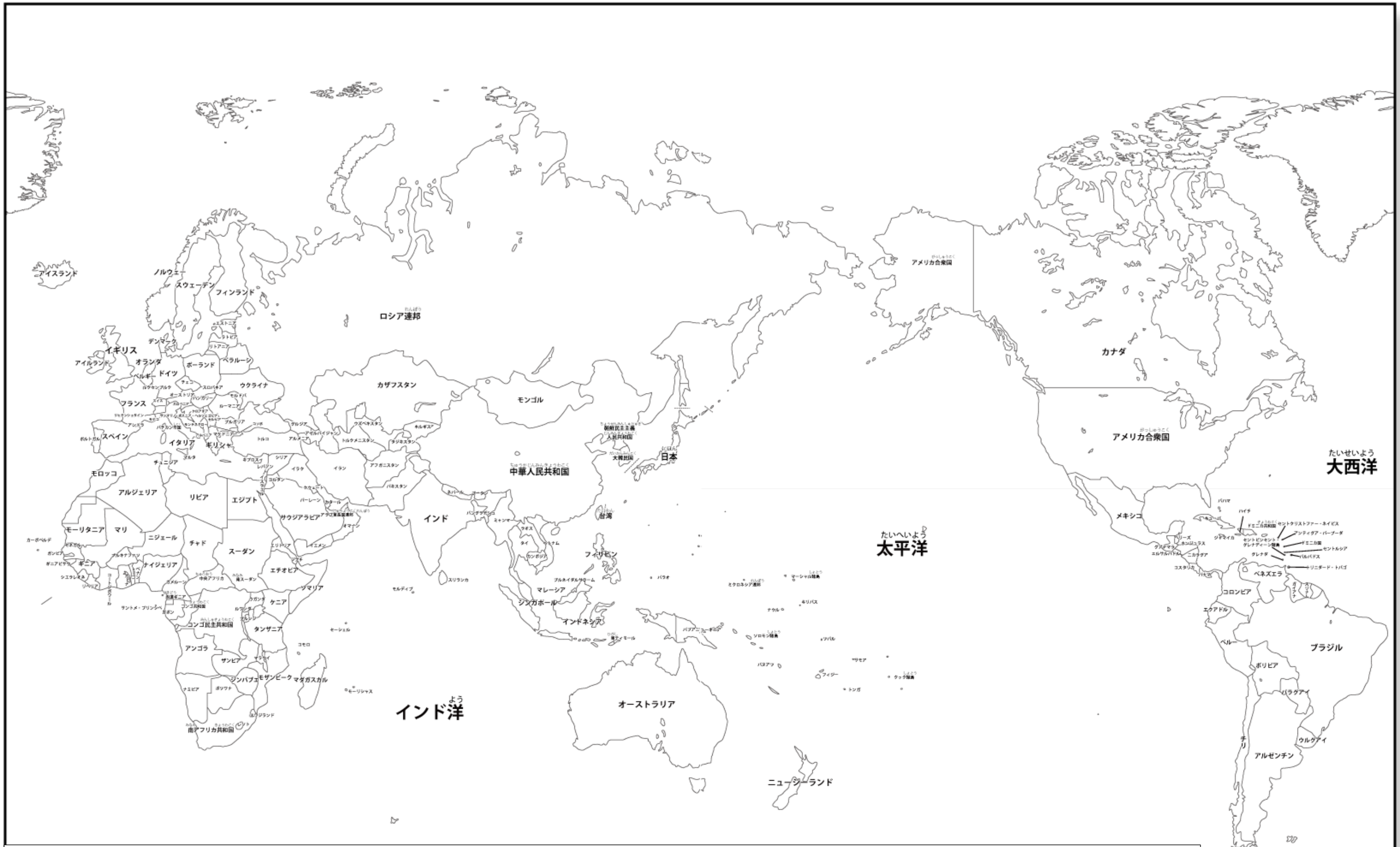
◎国際協力ってどんな協力をしているんだろう。

３．日本が取り組む国際協力（　　の活動）の様子。

国際協力とは

・・・（　　）

1．今まで学習した国を思い出そう



◎気づいたこと

みんなの　えがおのために

氏名：　藪内　真帆　　学校名：　京都市立向島秀蓮小中学校

担当教科：　小学校全科　　実践教科：　学級活動　（国語･道徳･図画工作･音学）

時間数：　4時間　　対象学年：　1年生　　人数：　85人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：みんなのえがおのために		
・ルワンダの生活の様子について知り、他国の人々や文化に親しむ。 ・国際協力の仕事について知り、日本と外国のつながりを感じ、平和について自分なりの思いを持つ。		
【2】 単元の評価 基準	関心・意欲・態度	他国の人々や文化に親しむことができる。
	思考・判断・表現	ルワンダの遊びや文化について知り、日本と似ているところや違うところについて考えることができる。 国際協力の仕事や､平和についてのおもいをもつことができる。
	知識・理解	ルワンダの生活の様子や、文化について知ることができる。 国際協力の仕事について知ることができる。
【3】 単元設定の理由	本学級の児童は、１年生ということもあり、自国と他国の文化の違いをあまり意識していない。しかし、学級内には外国にルーツをもつ児童も在籍しており、これまでも学級活動等で様々な国の遊びや歌に触れる機会はあったので、日本以外の国の文化についても関心をもっている。これまでの学習では、韓国朝鮮の遊びを体験し、「日本と少し似ている」「初めての遊び方」などと様々な感想をもっていた。 日本の文化でさえあまりはっきりとは意識していない１年生であるからこそ、遠く離れた国ルワンダに対しても、違いだけではなく、似ているところを見つける活動を取り入れることで、より親しみをもち他国を身近に感じることができるのではないかと考える。 ルワンダの布や物、学校の様子などを知り、関心を高めた上でルワンダが抱える水の問題についても触れ、１年生なりに自分にできることを考えさせたい。そして、日本が現地の方とともに行う国際協力の仕事を知ることで、児童らの世界を広げたり、働く人に対する思いを持たせたい。 ルワンダやアフリカとの繋がりは、児童らにとって普段意識する機会の少ないものである。しかし、指導者を通じて、本単元で世界の遠い国で活躍する日本人や、自分たちと同じように学校へ通い生活している子どもたちの存在に気付くことで、遠くにいる誰かのことを思いやり、共に生きていこうとするための土台づくりとなるよう、授業を進めたい。	

【4】展開計画（全４時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	せんせいのなつやすみ ルワンダってどんなくに？ ルワンダの写真やお土産に出会うことを通して、感じたことや疑問に思ったことを話し、関心をもつ。	・ルワンダの国旗や、場所などについて知る。 ・ルワンダの布やかご、服装などを実際に手に取りながらルワンダの文化に親しむ。	写真 ・街並み ・市場 ・食事 ルワンダのお土産 ・布 ・かご ・紙袋 ・民族服 ・コーヒー豆
2 本時	見つけた たくさんのおなじ ルワンダの日本の学校を比べ、同じところや似ているところを見つけることで、ルワンダの人々を身近に感じることができるようにする。	・ルワンダと日本の学校の様子を比べて、似ているところや違うところについて話し合う。 ・ルワンダの教室や、宿題、子どもたちが歌う動画などから、自分たちと似ているところをたくさん見つける。	写真 ・学校 ・教室の様子 ・ルワンダの学校の宿題 ・登下校の様子 動画 ・ルワンダの子どもたちが歌う様子 ルワンダのお土産 ・本
3	みんなのえがおのために 身近に感じたルワンダの水問題について考え、国際協力について知る。	・水くみの仕事をする子どもたちについて知ることで、自分たちの学校生活との違いについて考える。 ・自分や周りができることを１年生なりの言葉で話し合う。 ・ルワンダの灌漑工事の様子や、ルワンダで働く日本人の写真を見て、国際協力の仕事について知る。	18L の水 写真 ・灌漑工事の様子 ・公共用水の様子 タップマネージャーさんの話 絵本 ・トッド・パール「ちきゅう」
4	おきにいりのぬので ルワンダの布で気に入った柄や、組み合わせを考えてコースターを作り、その良さを友達に伝え合う。	・ルワンダの布とビンの蓋で作ったコースターを参考にして、ペットボトルのキャップでオリジナルコースターを作る。 ・作ったものを互いに鑑賞し、それぞれの良さを味わう。	ルワンダの布 日本の布 ペットボトルのキャップ

【5】本時の展開　＜学級活動＞

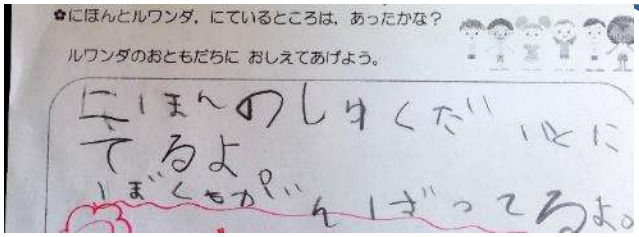
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
帯学習	ムラホソングを歌おう	・音楽に合わせて、ジェスチャーをつけながらルワンダ語で歌う。	外国語活動教材 「Hi、friends!」より Hello song カラオケ
導入 (10 分)	１．前回見たルワンダの写真を見返して、気付いたことを話す。 〇ルワンダって、どんな国でしたか。 ・バナナがたくさんあったよ。 ・カラフルな服を着ていました。	・日本と比べて似ていたか違ったかを問うことで、これまでの印象を整理する。	写真 ・ルワンダの街並み ・食べ物 ルワンダのお土産
	みんなとルワンダの子どもたち　にているところはあるのかな？		
展開 (25 分)	２．ルワンダの学校の写真を見て、気づいたことを話す。 〇気付いたことを発表しましょう。 ・制服を着ているな。 ・ランドセルを持っていない。 ・きらきら星を歌っている。	・写真を見ながら二人組で気づいたことを話すことで、多くの視点を持てるようにする。 ・全体で気づきを交流する。	写真 ・学校、教室の様子 ・ルワンダの宿題 ・登下校の様子 動画 ・ルワンダの子どもたちが歌う様子
	３．似ているか、違うかを話し合う。 〇発見したことは、わたしたちと似ていますか。 ・わたしたちもきらきら星を歌うので、似ています。 ・学校の周りが森の中みたいで、似ていません。 ・給食のおかずは全然違うけど、給食当番がいるのが似ています。	・出た意見を全体で分類できるように、似ているところと違うところを色分けして板書で整理する。 ・ウムチョムイーザ学園の子どもたちの様子と、自分たちの学習の様子や表情を比べ、同じように学習に向かっていることや、夢をもっていることに気付くことができるようにする。	写真 ・学級の子どもたちの様子 ・ルワンダの子どもたちの夢
まとめ (10 分)	４．ふりかえりをする。 ・日本にも給食があるよ。 ・わたしたちも、宿題で字や数字を練習したから似ているね。	・ルワンダの友達に伝えるようなワークシートにすることで、考えたことや気付いたことをふり返ることができるようにする。	

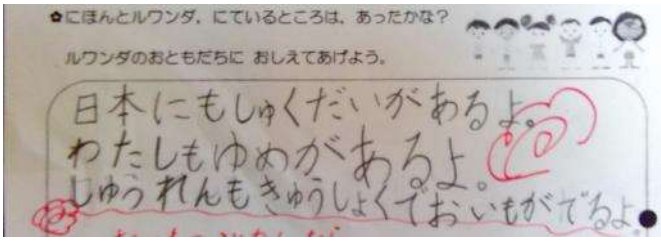
【授業実践の様子】

を見つけました！

にているところはあるかな？

見つけた似ていることを、友達に伝えよう！





【6】本時の振返り

児童らはルワンダに高い関心を寄せ、「早く学校が見たい！！」と期待を膨らませていた。そのため、写真から気づいたことを意欲的に発表したり、友達と伝え合ったりしていた。しかし、日本と似ているところを見つけるよりも、違いを発見することが新鮮で楽しいようで、「似ている」「同じ」を引き出す際に、誘導的になってしまった部分もあった。

ルワンダの子どもたちが「きらきらぼし」を歌う動画を見た際には、自分たちも音楽科の学習で歌ったことを思い出したり、一緒に口ずさんだりしていた。本時の中では、一番子どもたちが自然な形でルワンダを身近に感じることができた場面であった。小学校低学年での授業の際は、とにかく歌ったり遊び体験を通じて様々な文化に親しむことが、実態に応じた学習活動であると実感した。

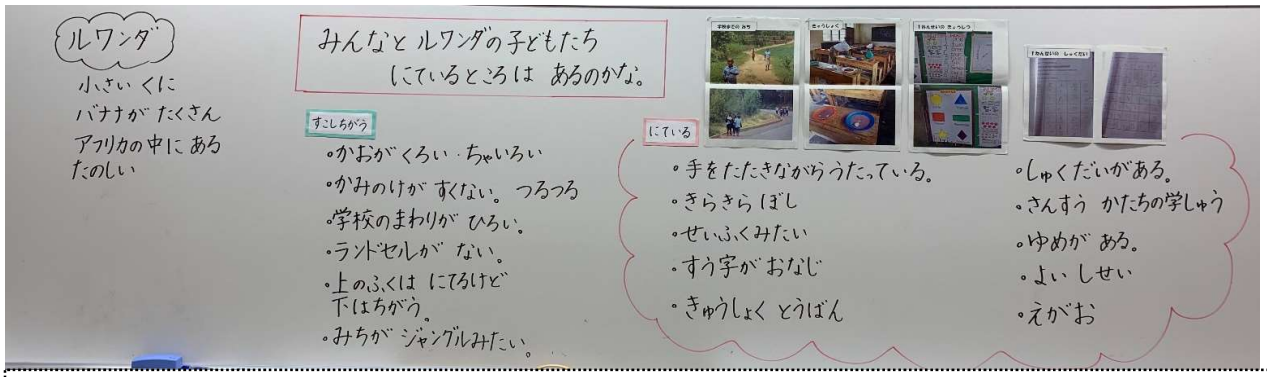
小学 1 年生ということで、日本とルワンダ、海外との繋がりについて深くは理解していないが、世界には色々な国があることや、そこに暮らす人々がいることを知り、文化の違いに親しんでいた。さらに、ふりかえりを手紙の形式にしたことで、子もたちはルワンダの子どもたちの存在を意識しながら、本時での気付きをまとめることができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応　　児童の発言

第１時　せんせいのなつやすみ
ルワンダってどんなくに？

※国語科「なつやすみのことをはなそう」の一部で実施

第２時　見つけた　たくさんのおなじ（本時）



ルワンダのおともだちへ（子どもたちのふりかえり）

・ルワンダのみなさん、日ほんもしゅくだいがあるよ。たのしいよ。ルワンダのみんなも楽しい？きゅうしょくはおいしい？

・しゅくだいがあるよ。さんすうのじゅぎょうもあるよ。よいしせいだよ。

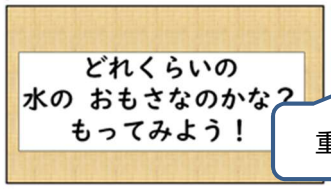
・さんすうのかたちの学しゅうがにているよ。わたしにもゆめがあるよ。

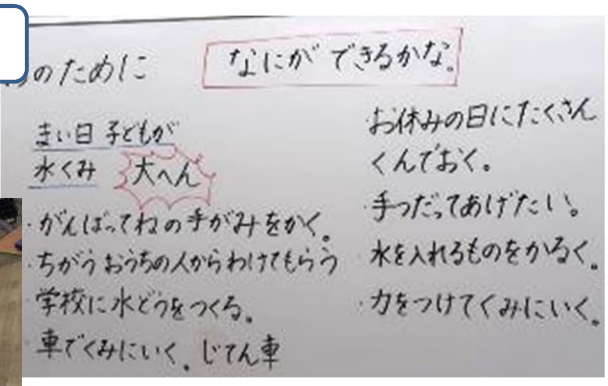
・みんなゆめをもってるし、それぞれゆめをもっているのがにているね。

・にているところもあったしちがうところもあったよ、べんきょうがんばってね。

第３時　みんなのえがおのために

※道徳（Ｃ 国際理解、国際親善）で実施





ルワンダの人といっしょに水をとどける日本人

タップマネージャー　ムカルリンダさんのはなし

子どものふりかえり

・にほんじんがわざわざルワンダまでいって、しごとをしているのがすごいとおもった。

・みんなできょうりょくしてみんなでダムをつくっているのがかっこいいとおもいました。

・おうえんしたくなりました。

・にほんのひとがいってくれてるからあんしんしました。

第４時　おきにいりのぬので

※図画工作科で実施

児童の作品

子どものふりかえり

・ルワンダはビンだったけど、わたしたちはペットボトルのキャップでコースターができました。

・ルワンダの人にも見てもらいたいです。

【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】
アフリカやルワンダという言葉を聞いたことがないような児童も多くいた。本単元を通して、「世界にはたくさんの国があるのだな」「知らない国がまだまだありそうだな」「行ってみたいな」という思いが芽生えてきた。 給食の献立に出てくる外国の料理に興味をもつようになった。「ルワンダ料理は出てこないの？」「食べてみたい」と伝えてくれた。また、道徳でオリンピック・パラリンピックを題材に学習した際、「あなたはどんな人を応援したいですか」という問いに「ルワンダの人」と答える児童が多くいた。本単元を通して、外国を意識したり、知っている国や人のことをおもったりする姿が増えた。
【途上国・異文化への意識の変容】
（授業前） １年生ということもあり、日本の文化や外国の文化について、深く認識していない児童が多かった。また、なんとなく違いはありそうだと感じていながらも、何がどのように日本と違うのか具体的にイメージをもっていなかった。 身近に水がある生活が当たり前で、世界には途上国と呼ばれる国があることも知らない児童が多かった。
（授業後） 世界には、色々な国があり、自分たちの生活と似ているところもあれば違うところもあるといったことに気づいた。違いも前向きにとらえようとする意識を感じ取ることができた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	教師が伝えたいことをいかに子どもたちの発達段階に合わせて提示するかという点で苦労した。1 年生には、難しいと分かっていながらも、「どうにかして水の問題や国際協力について知らせたい」「1 年生なりに自分たちにできることを考えさせたい」との思いが強くなってしまった。 また、どの教科で単元を設定するのかという点についても悩んだ。各教科の年間時数は決まっているため、どの教科、どの単元と絡めながら授業を組み立てていくのか、学年の先生方とも相談しながら考えた。
2. 改善点	欲張らず、発達段階に応じた内容で授業をする必要がある。長期的な視点で、それぞれの学年に合わせて、ルワンダを通して国際理解教育をしたり、平和について考えたりできるように工夫していきたいと思う。 カリキュラムマネジメントの視点から、４５分間全てを使わずとも、各教科で通常に行う授業の中の一要素として、ルワンダの写真や物を紹介することで、より子どもたちが外国の文化や価値観に触れる機会が増える。
3. 成果が出た点	子どもたちにとって、ルワンダという国について初めて知ることで世界が広がったり、私を通して遠く離れた国でも何かしらの繋がりを感じたりする機会になったのではないかと思う。肌の色や、生活の様子の違いを肯定的にとらえ、「行ってみたい」「応援したい」といった発言が子どもたちから出てきたことも成果の一つだといえる。

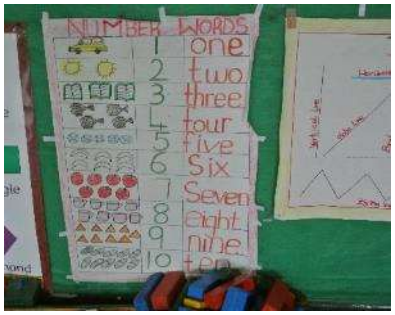
4. 備考	現地での学びはもちろんだが、帰国後に授業実践をし、それを今年度の参加者と共有できたことでまたさらに学びが深まった。一人ではなく、より多くの人と一緒に継続して、開発教育や国際理解教育を取り組むことで、子どもたちの関心が高まったり、理解が深まったりすると思う。今年度の課題や成果を生かして、また次年度からの実践にも役立てていきたい。

添付資料：本時で活用した資料（現地で撮影した写真）

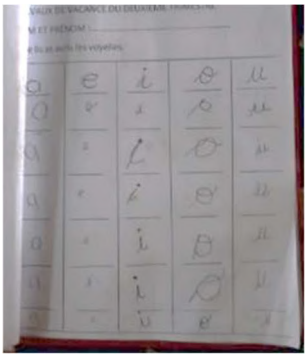
きゅうしょく

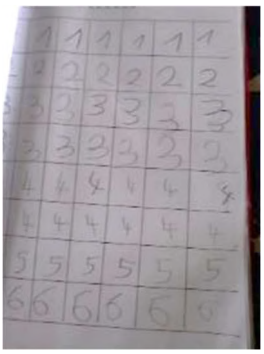
学校までのみち

１ねんせいのきょうしつ



１ねんせいのしゅくだい





参考資料：

・JICA 地球ひろば（2007）『学校に行けない世界の子どもたち』独立行政法人国際協力機構
・JICA 地球ひろば（2010）『世界の水問題』独立行政法人国際協力機構
・JICA 地球ひろば（2018）『学校に行きたい！　国際協力とわたしたち』独立行政法人国際協力機構
・JICA 地球ひろば（2019）『国際理解教育実践資料集』独立行政法人国際協力機構
・JICA（2019）『どうなってるの？世界と日本　第二版』独立行政法人国際協力機構
・JICA 広報室（2019）『みんなでつくる、よりよい世界』独立行政法人国際協力機構
・トッド・パール（2010）『ちきゅう』解放出版社
・浜田桂子（2011）『へいわってどんなこと？』童心社
・中地フキコ（2011）『ルワンダに教育の種を　内戦を生きぬいた女性・マリールイズの物語』かもがわ出版

世界の諸問題に関するインフォグラフィックポスターの制作

氏名：　楠本　祐介　　学校名：　大阪市立第二工芸高等学校

担当教科：工業（デザイン）　　実践教科：　工業　課題研究

時間数：　38 時間　　対象学年：　3 年　　人数：　7 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：

ルワンダ、その周辺諸国における貧困問題や紛争問題、世界と日本との繋がり、SDGsについての学習を通じて、自身と他国の人々との関係や環境、文化などの多様性・同一性について理解を深める。

興味を持った世界の諸問題についての調査を行い、それらを他者に伝えるためのインフォグラフィックを制作する中で、国際社会が抱える多様な問題を他者に伝える能力、表現力の育成をめざす。

【2】 単元の評価 規準	（ア）関心・意欲・態度	世界の諸問題について関心を持つことができる。
	（イ）思考・判断・表現	他者へ伝達することを意識した表現ができ。
	（ウ）技能	グラフィックソフトを使用し、思い通りの表現ができた。
	（エ）知識・理解	テーマとした課題についての知識を深め、それらを他者に伝えることができた。

【3】
単元設定の理由

〈生徒観〉

本校はインテリア科・クラフト科・デザイン科の 3 学科、4 年制の定時制高校である。様々な理由から不登校、学習面、友人関係、家庭環境など多様な課題や問題を抱えている生徒が少なくない。そういった生徒たちに広い世界の中で皆が活躍する場があることや、地球規模の問題に対し、国を超え支援・協力が必要であることを実感できる授業づくりをめざした。

〈教材観・指導観〉

・「課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う」といった課題研究の目標と合致した内容である。

・データ（数値）だけで物事を図るのではなく、その原因や各国の現状について多面的・多角的に考え、調査し理解することで、探究的学習や深い学びにつながるよう工夫する。

〈想定される生徒の変容〉

・世界の様々な問題に対して自身の意見を持ち、他者へ伝えることのできる知識、技能の習得を期待する。

【4】展開計画（全 38 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1～8 本時	〈水の問題〉 ・水をめぐる問題について、ルワンダとその周辺諸国に焦点を絞り学習し、理解を深める。 ・SDGs についての学習を通して地球規模で解決すべき課題について理解を深める。 〈紛争と紛争鉱物〉 ・ルワンダでのジェノサイド、隣国コンゴ民主共和国における紛争問題について学習し、理解を深める。	○水をテーマに貧困問題や日本と国際社会（アフリカ）との繋がりについて学習する。 ○SDGs について学習する。 ○紛争・紛争鉱物をテーマにアフリカとスマホの関係について学習する。 ・ICT 機器でのスライドショーによる指導、さまざまな教材を使用し、グループでのワークショップを行う。	・A4、B2 用紙 ・世界地図 ・アフリカ地図 ・Keynote （自作スライドショー） ・20ℓポリタンク ・SDGsのアイコン ・配布プリント ・
9～ 18	〈情報収集・整理・意見交換〉 ・インターネットを使用した情報の収集方法について学ぶ。 ・情報の信憑性を精査し、多面的に物事を捉える。	○ 情報収集 ・インターネットを使用し、必要な情報を収集する。 ○ 情報の整理 ・収集した情報をプリントに整理する。 ○ 意見交換 ・自分がテーマとする内容について発表し、他者からの意見を参考にし、制作のヒントを探る。	〈プリント〉 ・課題説明 ・テーマとする問題 ・国際協力団体一覧 ・各自のテーマについて
19～ 36	〈インフォグラフィック制作〉 ・今までに学習した知識・技能を活かし独自の表現をめざす。 ・他者へ伝達することを意識した視覚表現について学ぶ。	○ アイデアの創出 ・収集した情報をわかりやすく表現するための方法を探る。 ・アイデアスケッチを重ね、他者が理解しやすい表現を探る。 ○ 本制作 ・アイデアをもとに、グラフィックデザインソフト（Adobe Illustrator）を使用し制作を行う。	〈プリント〉 ・アイデアの整理
37、 38	〈プレゼンテーション〉 ・制作した作品、制作の意図について説明をする。 ・他者の発表を聞くことにより、幅広い知識を共有し、表現方法の幅を広げる。	○ プレゼンテーション ・制作した作品、意図、表現方法について発表を行う。 ・発表者の内容を理解し、疑問点について質問する。 ・本単元での学びについての振り返りを行う。	・制作物の掲示（A1） 〈プリント〉 ・発表内容の整理 ・各作品をまとめたもの（A4）

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （20分）	○班分け ・「自分の行きたい国」を一つ挙げて日本からの距離が近い順に並び、行きたい理由について発表を行った後、指定された席に着く。 ○ルワンダについて ・スライドショー（研修中の写真を用いてルワンダの現状、人々の生活について学ぶ） 【水の問題】	・日本と各国の距離がわかるように地図を掲示する。 ・グループでのワークショップがしやすいよう、積極的に発言を促し、場づくりを行う。 ・実際に体感したことや感じたことをできるだけ率直に伝える。	・A4 用紙 ・世界地図 ・Keynote （自作スライドショー「ルワンダ」） 【資料1】 【資料2】
展開 （340分）	○20ℓ の水を持ってみよう！ ・スライドショーで見たルワンダの人々と同じように、ポリタンクを実際に持って歩いてみる。 ○ワーク1「どのくらい水を使っているか調べてみよう」 ・自分が普段生活の中でどのくらい水を使用しているかプリントに記入する。 ・何に使う水が最も多いか、使用後1番汚れるのはどれか、などグループで話し合う。 ○映像資料「アイシャの１日」 ・エチオピアの少女の１日を知る。 ○ワーク2「水の問題について考えよう」 ・教材を用いて、グループワークを行う。 ・どのような結果になったか班ごと	・周囲に気をつける。また、無理をさせない。 ・どのくらいの距離を実際歩いているかイメージさせる。（無舗装・山道など） ・1分間の給水量などの目安を提示する。 ・自分が日常どのくらい水を使っているのか、ルワンダの農村部の人々と比べてみる。 ・なぜ水を汚すといけないのか大阪府の上下水道の現状を考える ・水を得るための苦労、そのために失われる教育の機会について考える。 ・「学校に行く時間がない」のカードを起点にし、そこから生じる問題を考え、その問題から次の問題へとつな	・Keynote （自作スライドショー「水の問題」） ・20ℓ ポリタンク ・プリント「どのくらい水を使っているか調べてみよう」 ・映像資料『アイシャの１日～水を得るために～』 ・教育が受けられないことで起こる“負の連鎖”を考える ・B2 用紙

	に発表を行う。	げていく。 ・最終的にこの連鎖は繰り返されていくことを理解させる。	
	○ワーク3「日本と世界の関係について考えよう」 ・教材を用いて、グループワークを行う。 ・気づいたこと、考えたことについて班ごとに発表を行う。	・カードの中からアフリカと関係のあるものを選び、関わりをグループ内で話し合う。 ・カードに描かれたものの説明が書かれている用紙を配付し、カードを地図上に貼っていく。（割合や原料なども書き込む）	・私たちの生活とアフリカとのつながりを考える ・B2 用紙 ・アフリカ大陸地図 【資料3】
	○世界の課題は日本の課題 ・冊子を使用し SDGsについて学習する。	・教材『私たちが目指す世界』を使いSDGsについて学び、世界の様々な問題に対し理解を深める。また、どのような取り組みによってそれらの課題が解決できるのか考える。	『私たちが目指す世界』（JICA ほか）
	○ワーク4「事象にあてはめてみよう」	・ワーク2で制作した「負の連鎖」の表を使い、関わりのある SDGsを当てはめる。	・SDGs17 のアイコン 【資料4】
	【紛争と紛争鉱物】		
※まとめ（なし）	○ルワンダ「ジェノサイド」 ・スライドショー（研修での写真などを用いてルワンダの歴史、難民問題について学ぶ）	・研修で訪問したムトボ武装・動員解除/社会復帰リソースセンターの写真からルワンダのジェノサイドの歴史について学ぶ。	・Keynote （自作スライドショー「紛争と紛争鉱物」） 【資料5】
	○ワーク1「スマホについて考えよう」 ・スマホに関してのプリントに記入する。	・スマホを持って何年か、使わなくなったスマホはどうしたか、などについてプリントに記入する。	・プリント「スマホについて考えよう」
	○映像資料「10 年間でつくられたスマホ、71 億台」	・映像から今まで生産、廃棄されたスマートフォンの実情を知る。	・映像資料『10 年間でつくられたスマホ、71 億台』
	○ワーク2「フォトランゲージ」 ・3 枚の写真についてグループで	・コンゴ民主共和国の「ゴリラ」「採掘場」「孤児」の写真を提示。	・原料調達段階での問題「紛争鉱物をめぐ

	意見を出し合う。 ・ルワンダの難民問題、コンゴの鉱物採掘の現状、紛争問題について考える。 〇ワーク3「新聞記事から考えてみよう」 ・新聞記事を読み、グループで意見を出し合う。 〇Fairphone、モバイルリサイクルについて。 ・資源調達の持続可能性について考える。	・ルワンダのジェノサイドと難民問題、鉱物採掘と紛争問題について学習する。 で新聞記事を読み、紛争鉱物をめぐる国際取引について考え、意見を交換する。 ・パーツをアップデートできるスマホ端末やモバイルリサイクルについて学び、資源調達の持続可能性について考える。	る問題」 【資料6】 ・新聞記事から知るスマホを取り巻く問題 ・新聞記事（朝日新聞 2016.8.24 朝刊）「紛争鉱物　断てぬ世界」 【授業風景2】

【授業実践の様子】

【資料1】
ルワマガナ郡・
給水スタンド

【資料2】
水の価格比較

【授業風景1】

【資料3】
アフリカとのつながり

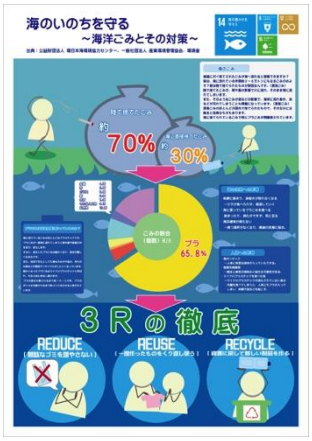
【資料4】
負の連鎖と SDGs

【資料5】
ムトボの青年たちと

【資料6】
コンゴの紛争

【授業風景2】

〈インフォグラフィック制作〉生徒作品（A1サイズ）



【インフォグラフィック1】
「海のいのちを守る
～海洋ごみとその対策～」

【インフォグラフィック2】
「危険・有害労働に就く子どもたち
～児童という労働力～」

【6】本時の振返り

学習ではジェノサイドをはじめ重い内容も多かったが、グループワークで自身の想い、考えを発言する場があったことで良い雰囲気で学習できた。積極的な発言によってスムーズに指導を進めることができた。
本時の学習には様々なアプローチがあると思うので、今後も教材研究を重ね、よりよい指導を模索していきたい。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

〈学習後の生徒の感想〉
・様々な問題については聞いたことがあったが、詳しく内容を知ることができた。
・プレゼンテーションで他者の作品を見ることで効果的な表現方法が理解できた。
・環境問題に関心を持った。（ゴミの減量、ポイ捨てしない、分別する、エコバックを持ち歩く）
・多くの問題は自分たちが少しでも意識して実行すれば改善されるはずだ。
・社会人になったら寄付や国際協力をしたい。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

（授業前）
アフリカは日本から遠い異国で、自分とは関わりはないと感じていた。

（授業後）
自分たちの生活とアフリカとの関係について知り、距離感が縮まった。
普段の会話の中で世界のニュースなどを話題にしたり、環境問題についての話をするようになった。
国際問題や環境問題、SDGsについての関心の種が着実に芽吹いたと感じる。

【8】自己評価

1. 苦労した点	今回の研修での学びについて、どこに焦点を絞り本時の指導に活かすか悩んだ。結果として、現地で一番関心を持った「水の問題」と、教師海外研修のテーマである「平和」について取り上げたが、自身のルワンダのジェノサイドやコンゴ民主共和国における難民問題・紛争問題に関する知識習得には研修後多くの時間を要した。
2. 改善点	本時におけるワークには JICA や NGO が開発した教材を多く使用した。今後は自身の教材を制作し指導できるよう教材研究に勤しむ。 グラフィックソフトを使用した本制作においては、生徒の技術不足による作業停滞が見られた。アナログ制作とデジタル制作の両面で作業を進めるべきであった。
3. 成果が出た点	今回のインフォグラフィックの制作での成果は、生徒一人ひとりが伝える責務を持つことが出来たことである。今までの制作では他者を意識した制作ができなかった生徒も、客観的に制作物を観ることができるようになった。 また、他者の制作にも関心を持ち質問やアドバイスなどを積極的に行っている様子やプレゼンテーション後「もっとこうすればよかった」など反省点、改善点などを語っている姿に成長を感じた。
4. 備考（授業者による自由記述）	本単元の他に文化祭で研修内容のパネル展示を行った。生徒はもとより、保護者、教員にも教師海外研修や JICA の取り組みが伝わった。また、文化祭クラスの取り組みではアフリカンファブリックを使った雑貨づくりを行った。生徒、保護者、教員全員が異文化の斬新なテキスタイルデザインに興味関心を持ったと感じる。 授業実践を終え、本単元以外でも様々な場面で国際理解教育などを課題に盛り込むイメージが持てた。今後、学年を跨いだ継続的な指導や他教科・他科目との横断的な指導に取り組んで行きたい。 【文化祭展示1】　【文化祭展示2】　【文化祭雑貨】

参考資料：

・『水から広がる学び』（DEAR 開発教育協会）
・『国際理解教育実践資料集』（JICA）
・『私たちが目指す世界』（JICA ほか）
・『スマホから考える　世界・わたし・SDGs』（DEAR 開発教育協会）
・『NATIONAL GEOGRAPHIC 2013.10』（日経ナショナル ジオグラフィック社）

・『NATIONAL GEOGRAPHIC 2018.6』（日経ナショナル ジオグラフィック社）
・『ぼくらのアフリカに戦争がなくならないのはなぜ？』小川 真吾（合同出版）
・『ぼくは 13 歳　職業、兵士。』小川 真吾（合同出版）
・『ルワンダ・ワンダフル』伊東 乾（解放出版社）
・『世界の美しさをひとつでも多く見つけたい』石井 光太（ポプラ社）
・『ルポ餓死現場で生きる』石井 光太（ちくま新書）
・『ぼくの村は戦場だった。』山本 美香（マガジンハウス）
・『アイシャの１日～水を得るために～』（日本ユニセフ協会）
https://www.youtube.com/watch?v=PP0IvKmLfRY
・『10 年間でつくられたスマホ、71 億台』（国際環境 NGO グリンピースジャパン）
https://www.youtube.com/watch?v=Sc88ZerkgZM

「国家」とは、どうあるべきか

ー持続可能な社会づくりを実現するためにー

氏名:　田辺　記子　　学校名:　立命館守山高等学校

担当教科:　地歴・公民　　実践教科:　世界史 A

時間数:　4 時間　　対象学年:　1 年生　　人数:　76 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

・過去・現在における世界のさまざまな政治形態について理解し、歴史を学ぶことの意義について考えることができる。

・「独裁＝悪」というような既成の概念に対して疑問を持ち、別の見方ができるかどうかという可能性を探ることができる。

・「国家」とは、「持続可能な社会」とはどうあるべきか、自分のことばで述べることができる。

【2】 単元の評価 規準例	（ア）関心・意欲・態度	・既成の概念に対して疑問を持つことで、新たな知見を得ようとしている。 ・歴史的事実から、現代における「持続可能な社会」のあり方を考察しようとしている。
	（イ）思考・判断・表現	・各国の歴史的背景や地理的・経済的特色を踏まえ、なぜそのような政治形態を取るに至ったのか、説明することができる。 ・「国家」とはどうあるべきか、自分のことばで述べることができる。
	（ウ）技能	・インターネットや書籍を用いて、必要な情報を抽出することができる。 ・「説得力をもって伝える」ことを意識したスライド作成や発表をすることができる。
	（エ）知識・理解	・第二次世界大戦後に存在していた世界の独立国家における政権・政治形態について理解している。 ・各国の歴史的背景が、国家形成に大きく影響していることを理解している。 ・ルワンダの歴史や現政権について理解している。

【3】

単元設定の理由

✓ 児童/生徒観

✓ 教材観

✓ 指導観

✓ 設定時に想定された児童・

【生徒観】

世界史の授業に対する生徒の意欲・関心は高く（授業アンケート結果より）、授業中の発言は活発に行われており、周囲との意見交換も積極的に行うような生徒たちである。日頃より、「SDGｓ（持続可能な開発のための目標）が策定された背景には、これまでの歴史的要因が大きく関わっている」ということを考える授業を行っていることから、過去と現在とを結びつけることの重要性については理解をしている。

【教材観】

現在のルワンダは、ポール・カガメ大統領のもとある種の「独裁体制」が敷かれているが、これによって多くの国民が「幸せ」に暮らしており、アフリカにおいて高い経済成長率をたたき出している。一方、この単元に入る直前は「ファシズムの台頭　ームッソリーニとヒトラーー」という授業であり、民族や国家の利益を何よりも優先させた結果の独裁体制＝ファシズムが生み出した悲劇について学んだ。これからの多文化共生社会を形成するにあたって、ルワンダで起きている現実と、歴史的事実から得られた

生徒の変容	「独裁体制＝悪」という構造は、どう論理的に比較し考察することができるか。既存の知識に対して、多角的・多面的な視点を持つことにより、よき「市民」となるための思考力や判断力、人間性等を培うのに適した教材である。 【指導観】 「独裁政治＝悪」、「民主主義＝善」は揺るぎない価値観なのか。日頃より、一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性を説いていることから、国家のあり方についても、生徒の既存の知識・価値観に対して揺さぶりをかけることで批判的思考力を養いたい。またこの授業を通じて、「これからの多文化共生社会をどう形成すべきか」という答えのない問いに対して、自分の中の「最善解」を導き出す論理的思考力を養いたいと考える。 【設定時に想定された生徒の変容】 この1単元の授業で、生徒が劇的に変わるということは想定しておらず、あくまで通常の授業の延長にある。しかし一方で、一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性は再認識するものと考える。また、これまでの授業では、自分の考えをレポートの形式でまとめるにとどまっていたため、それを口頭発表するところが新たな取り組みとなる。オーディエンスがいるということは、自分の言いたいことをただ言うのではなく、相手に「伝える」ということを重視する必要があることから、この点における成長が期待される。

【4】展開計画（全４時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 (0.5)	＊2 学期期末考査返却 《0.5 時間》 課題提示「世の中に“良い”独裁ってありますか？」 ・課題の意義を理解する。	・イタリアのファシスト党、ドイツのナチ党による独裁＝ファシズムついては履修済。 ＊前時、ポーランドの留学生から「ポーランドにおける歴史教育」のスピーチを聞き、ナチス・ドイツの独裁体制について、自分たちの考えをまとめた。 巻末 HP アドレス参照 ・課題の意義、内容、自分のすべきことを理解する。 別添資料参照【資料 1】	
2	発表準備 ・世界各国に存在した（する）さまざまな政治形態について理解するとともに、その形態を取るに至った国家的背景についても理解する。 ・独裁＝悪という既存の価値観に対して、自分も他人も納得できる新たな意見を構築し、論理的思考力を培う。 ・オーディエンスにわかりやすく伝えるための工夫をする。	・図書室へ移動する。 ・書籍やインターネットで情報を収集する。 ・自分の意見を構築する。 ・課題規定に沿って発表準備を進める。 ＊次回授業開始までに、発表要旨をロイロノートに提出する。 ＊この発表準備は、すべて宿題とすることも可能である。	・iPad ・図書室の書籍

3	グループ（G）発表 ・時間内に自分の考えを表現し、オーディエンスを説得することができる。 ・自分と他人の意見を比較・考察し、批判的思考力を培う。 ベストプレゼンター選出 ・G の中で最も説得力のあった考えを選考する過程で、協働的思考力を培う。	・グループに分かれ、課題規定に沿って発表を行う。 ・発表動画をロイロノートに提出する。 ・生徒同士で相互評価を行い、グループ内におけるベストプレゼンターを選出する。 別添資料参照【資料 2】 ＊ベストプレゼンター6 名の中から、教員の観点から見ても評価の高い 2 名を選出する。	・iPad（ロイロノート）
4 本時	最優秀プレゼンターによる全体発表 ・「世の中に“良い”独裁はある」、と主張するにはどのような考え方があるのか共有する。 「“良い”独裁」国家ルワンダ共和国の事例報告 ・ルワンダの歴史と国家体制を知る。 ・「独裁」が生み出す「幸せ」の形を知る。 ・ルワンダの事例を通して、国家とはどうあるべきか考察する。	・最優秀プレゼンター2 名の発表を聞く。 ・教員よりルワンダにおける「“良い”独裁」の事例を聞く。 ・ルワンダの現政権に対する自分の考えを周囲と共有する。 ＊次回授業開始までに、①「ルワンダが今後も安定して存続するためにはどうしたらよいか」②「“独裁政治“というものに対してどのように考え方が変化したか」③「持続可能な国家（社会）を形成するためには何が必要だと考えるか」についてのレポートを、ロイロノートに提出する。 別添資料参照【資料 3】	・iPad（Classi） ・生徒発表スライド ・ルワンダで撮影した写真 ・ルワンダ紙幣 ・毎日新聞 2019 年 7 月 14 日付 1 面・3 面
5 (0.5)	《0.5 時間》 まとめ ・持続可能な社会とはどのような社会かについて考える。 特別スピーチ ・ベルギーの留学生から「ベルギーにおける歴史教育」のスピーチを聞く。	・提出したレポートについて、周囲と意見交換を行う。 ・ルワンダの旧宗主国であるベルギーの留学生によるスピーチを聞き、ベルギーではどのような歴史教育がなされているかを知る。 ・植民地支配を行っていた国の歴史教育や、今後の自分たちの行動について考える。 別添資料参照【資料 4】 ・次単元「被害の拡大と戦争の終わり」では、第二次世界大戦の終結について学ぶ。この大戦の終わりが、必ずしも「悲劇の終わり」ではないことの導入とする。	

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （2 分）	○最優秀プレゼンターの紹介 ・ベストプレゼンターの中から 2 名選出したことを伝える。 ◆持続可能な国家（社会）とはどうあるべきか	生徒相互評価と同じ基準で教員も審査したことを伝える。	
展開 1 （10 分）	○最優秀プレゼンターによる全体発表 ・プレゼンターの発表を聞き、「世の中に“良い”独裁はある」、と主張するにはどのような考え方があるのか共有する。 ＊1 組：シンガポール、ルワンダ 2 組：シンガポール、ベトナム	最優秀プレゼンターの良かった点を全体に共有する。 「開発独裁」がキーワードになっていることを示す。 他の生徒たちがどのような国を選んで「良い独裁」と評価したのかを、簡単に紹介する。 ex）　中国、シンガポール、カンボジア、ベトナム、カタール、オマーン、ベラルーシ、ルワンダ	生徒作成スライド
展開 2 （30 分）	○ルワンダの事例報告 ＊教員が JICA 教師海外研修へ参加したこととその内容について、簡単に紹介する。 ・以下、生徒課題と同じ手順で、ルワンダの「“良い”独裁」の現状について報告する。 ①ルワンダの概況 ポール・カガメ大統領 2000 年～現在（3 選） ②ルワンダのどういう点を「独裁的」と判断するか ・「報道の自由度」ランキング 155 位／180 か国 ・言論統制の背景にあるジェノサイドの歴史 →ツチの政権を守りたいカガメ大統領 ・政敵排除の実態／歴史の書き換え／憲法改正など ③②のような状況があるにもかかわらず、なぜルワンダを「“良い”独裁」と評価するのか ・経済成長率年 7.8%／ビジネス環境ランキング 29 位／女性議員比率 1 位／平均寿命 67 歳	メモは必要があれば取るように伝える。 ジェノサイドの画像は衝撃が強い点を事前に伝える。 ジェノサイドの背景には、「国民の無知」があったという判断から、カガメ政権では「情報アクセス」と「教育」に重点を置いた政策がな	スライド（ルワンダで撮影した写真他）

	・ドローンによる血液輸送 ・ICT 教育 ・環境対策（ビニール袋全面禁止）	されている点を強調。 ルワンダ紙幣には教育政策への想いが反映されている点を指摘し、生徒に実物を回覧。	ルワンダ紙幣
	Q. 今の発表を聞き、本当にルワンダの現政権は「“良い”独裁体制」を敷いていると言えるか？		
	○周囲と意見交換 →全体共有	次の発問「教員からの問題提起」と直結するような内容が生徒間で話されていないか、注意深く机間巡視。全体共有の際にそうした意見が出た場合は、そのまま「まとめ」へ。	
まとめ （8 分）	○教員からの問題提起		
	Q. 言論統制は、「批判的思考力」を育まない教育である。ならば、ルワンダ国民はカガメ大統領の後任を、適切に選ぶことはできるのか？ また、「“悪い”独裁体制」になった時、ルワンダ国民は「それは良くない」と言うことができるのか？		
	・上記問題提起を踏まえ、最終的に考えたことを次回までにまとめて、レポート提出をする。 ①「ルワンダが今後も安定して存続するためにはどうしたらよいか」 ②「“独裁政治“というものに対してどのように考え方が変化したか」 ③「持続可能な国家（社会）を形成するためには何が必要だと考えるか」	前単元末にファシズムやホロコーストについて書いた小レポートを返却。提出用レポート用紙（【資料3】）を配布。独裁政治に対する自分の考え方の変化に気づかせる。 ルワンダに関する情報の出典となった新聞記事を Classi 配信。 現在配信中の「あいのり African Journey」エピソード 11・12 はルワンダ編であり、授業以外の内容も知る機会となることを紹介（Netflix にて有料配信）。	毎日新聞 2019 年 7 月 14 日付 1 面・3 面

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）

最優秀プレゼンターによる全体発表（シンガポール）

最優秀プレゼンターによる全体発表（ルワンダ）

ベルギー人留学生によるスピーチ①

ベルギー人留学生によるスピーチ②

【6】本時の振返り

全体を通して、生徒が自分たちで事前に“良い”独裁国家を調べていたことから、授業者によるルワンダの報告についても、関心を持って聞き、考えることができたと評価する。授業者がルワンダに行ったということは授業まで生徒には伏せていたため、ルワンダに対する予備知識はなかったものの、事前課題のあったことがルワンダという遠国について学ぶ動機づけとして成立していた。

展開１については、仲間の発表であったことから、授業開始時から高い集中力を持って授業に臨めており良かったと考える。

展開２では、ルワンダの“良い”独裁について、生徒間で意見交換を行う時間をもう少し取る必要があった。また、ルワンダだけのことではなく、自分たちの調べた“良い”独裁国家と比較してどうか、という点にも言及しながら意見交換ができると、なお有意義であったと考える。

公開授業時は、ベルギー人留学生による特別スピーチ（5 時）を本時 50 分の授業後（終礼時）に行い、その様子も公開した。生徒のみならず、教員にとっても他国の歴史を学べた点、またそこから自分たちの教育観を振り返られた点は評価できる。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

◆歴史を学ぶことの意義に対する変容（ベルギー人留学生から、「ベルギーによるルワンダ（コンゴ）への植民地支配と現代の歴史教育」についてスピーチを聞いた生徒の感想より）

〇「ベルギーは植民地支配をしながらも、ドイツやイタリアに比べて地位は低かった。ベルギーの政治の特徴についても調べてみたいと思った。〈留学生〉は、ベルギーの暗い歴史が教えられていないにも

関わらず知ろうとしていた。僕も日本の暗い歴史について知れるように学習したい。」

○「いつも歴史を学ぶとき、植民地支配をされた側からしか考えたことがなかったけど、立場を変えてみて、最後の“コンゴに謝りたい”という気持ちが、歴史から学ぶことだと思う。ベルギーの教育ではあまりベルギーが行った植民地支配を取り上げていないと聞いて、日本も同じだと気づいた。他国が行った植民地支配よりも日本が行った植民地支配を多く、深く知るべきなのに、私たちは自国よりも他国が行ったユダヤ人差別など多く学び、朝鮮・韓国への支配について詳しく学ばないことはおかしいと思う。」

○「自分は学校で習う歴史しか知らないから、学校の教育に疑問を感じて自ら調べている〈留学生〉に感心した。ただ、最後〈留学生〉は謝りたいと言っていたけれど、謝る必要はないと思う。二度と繰り返さないことが一番だと思う。」

○「日本は戦争の中で原爆による被害から平和主義を訴えるため、戦争教育はある方だと思うけど、自国の悪い面をあまり言わないのはどこの国でも同じことで、そこは良くない点だと思いました。」

○「現在のベルギーの学校では、植民地支配の歴史などは先生が教えないというのを知り、そういった悲しい出来事を繰り返さないようにするためにも、正しい歴史を教えるべきだと思いました。日本も過去には中国や朝鮮などを支配していました。そのような歴史を詳しく習わずに、勝手に中国や朝鮮・韓国に対して悪いイメージを持っている可能性もあると思います。それぞれの国の歴史を理解することは、それぞれの国を理解する上でも重要ではないかと思います。〈留学生〉の話しを聞いて、歴史を学ぶことは世界と関わっていく中で必要なことであると思いました。」

★このように、生徒は日本と同じように植民地支配を行った他国の歴史教育を知ることによって、改めて自分たちが歴史を学ぶことの意義について考えられるようになった。日本に生まれ、日本に暮らしていれば、その教育に対して特に疑問を持つことは少ないだろうが、他国の事例から自国のことを振り返る良い機会となった。生徒の感想は、単に留学生のスピーチを聞いた感想ではなく、これまでの世界史での学びを“点”から“線”で結んだ結果としての感想という印象を受ける。この単元を入れたことにより、留学生のスピーチが自然な流れの中で学習に落とし込まれた点も、その効果を大きく発揮した要因となったのだろう。今後はこの“線”をさらに増やし、歴史を“面”で、それも“多面的”に見られるように生徒の学びを運がしていく必要があると感じた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

◆「独裁政治」という異文化に対する意識の変容（生徒の感想より）

○「独裁政治にはメリットもデメリットもあるということを改めて考えるようになった。国民の権限を制限することで国民が幸せになることもあれば、不幸になることもあり、それを左右するのは元首でもあり、国民一人一人である。元首が勝手に主導権を握った場合でも、国民が正しさを見極められるかが大切だと思う。人々はその判断のためにも、広い視野で物事を見極められる力をつけるべきだと思った。」

○「独裁政治という言葉に対して、明らかに悪いイメージという先入観があった。しかし、良い独裁政治はいくつもあることを知って、考え方が変わった。独裁政治自体に良い悪いがあるわけではなく、独裁者やその国の人々の考え方の問題だと思う。」

○「独裁政治は悪いものだと思わないようになった。ナチスのホロコーストを学んだ頃は、人の自由を奪って独裁者が自分のことしか考えていないと思っていたが、開発独裁で国民のために様々な公共事業を行い、国を発展させたり、国民の反乱が起こるのが怖くて自分に権力を集中させている国がある

ことを知り考えが変わった。しかし、私は国の発展よりも、全ての人々の権利・自由を守り、民主的な政治をすることの方が大事なのではないかと考える。そして、個人の意見を持つためにも、政治について学ぶ必要があると考える。」

○「独裁政治について調べて思ったことは、独裁政治は絶対悪ではないけれど、やはり良い独裁はこの世に存在しないということだ。最初から良い独裁は存在しないと考えていたが、それは独裁政治の国は精神の自由が保障されていないことが多いから。もし、自分が政治に疑問を抱いたとしても反論する術がないのは怖く思ったから。独裁政治は誰も独裁者のことを止められないから常に不安がつきまとう政治に思う。独裁者自身の安全は保障されているようなものだから何をしでかすかわからない。」

★このように、ナチス・ドイツのファシズムと他国における独裁政治を比較することで、「独裁」という一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性が再認識されたものと考える。悪一辺倒から“良い”独裁の形があることに気がついた者も、またそもそも“良い”独裁などないと考えていた者も、角度を変えて「独裁」を見たことによって、その学びが深まっている様子がうかがえる。また、独裁政治は国や政治体制が悪いのではなく、その責任が自分たち国民にあるという点に気がつけたことは、自分たちが「なぜ勉強するのか」という部分のモチベーションとなりうることから、大きな学びであると考える。

【8】自己評価

1. 苦労した点	いかに「特別な授業」としないか、という単元設定がもっとも苦労した点である。普段の世界史の授業の延長線上にあるものでなければ、この授業はイベント化し、生徒がこれまでの学びと切り離して考える恐れがある。また、「教師がルワンダに行ったから生徒はルワンダを学ぶ」では、あまりにエゴイスティックである。そのためにも、ルワンダ「を」教えるのではなく、ルワンダ「で」教えることを考えなければならず、それは何が適切か、何がもっとも生徒の頭を“アクティブ”にさせるのかということを考える必要があった。これはどの授業でも共通して言えることだが、やはり「主発問を何とするか」を考えることがもっとも労力を使う点であるし、むしろそうでなくてはならないと考える。
2. 改善点	時間の都合上、ルワンダに関してもまだ伝えられていない事実（例えば、ICT 教育を発展させようとする政策を掲げる一方で、教師が Laptop の使い方を知らないため、学校では積み上げられているだけの現状もある、など）がある。つまり、この単元を成立させるために“不要”な情報が届けられていない点は、教師による情報コントロールが働いており、改善の必要がある。一度、この単元で考えるべきことが考えられたら、次のステップとして、まだ生徒が知らない事実を伝える必要があろう。一方で、生徒が自分たちでも気がついたように（生徒感想より）、学校で与えられる情報や学びには限度があることから、常に自分たちで“正しい”情報にアクセスするよう努力すべきということは、何度も伝えていく必要があると考える。

3. 成果が出た点	普段より、「SDGｓを21世紀の今になって策定した背景には、持続“不”可能なことをし続けてきた過去がある。よって、その過去を学ぶことはSDGｓ達成のために必要な知識となる」ということを念頭に世界史の授業を行っている。 今回の単元の結びは、「ここまでの学びを踏まえて、持続可能な国家（社会）を形成するためには何が必要か」ということを考えさせることであった。その中で、生徒たちは「自分たちが政治に関心を持つこと」、「教育の中でも、特に歴史を学ぶことは重要」という点を多く挙げている。つまり、SDGｓが達成される世の中には間違いなく自分たちがおり、そしてその社会を形成するために今歴史を学んでいる、という大きな構図があることを認識している様子が見て取れた。 しかし本来の「成果」は、その上でどのような行動をとるか、という点に表れる。その意味で、まだ本当の成果には出会っていないが、次年度以降、彼らは探究科の授業の中で、自ら課題を設定し、その解決のために自分たちができる“アクション”を考えることとなる。その時に、ここでの学びが活かされることを期待すると同時に、課外活動においても積極的に“外”の人と関わることや、コンテストや講演会などに参加するよう、支援を続けていくことが必要であると考える。
4. 備考（授業者による自由記述）	特になし

添付資料：

【資料１】～【資料４】

・ポーランド人留学生によるスピーチ

立命館守山中学校・高等学校HP【http://www.ritsumei.ac.jp/mrc/activity/article.html/?id=525】（2019年11月25日掲載）

・ベルギー人留学生によるスピーチ

立命館守山中学校・高等学校HP【http://www.ritsumei.ac.jp/mrc/activity/article.html/?id=546】（2019年12月18日掲載）

参考資料：

・世界経済のネタ帳【https://ecodb.net/ranking/pfi.html】（2019年12月11日最終閲覧）

【資料１】

世界史Ａ（GL）

「国家」とは、どうあるべきか？

－持続可能な社会づくりを実現するために－

【問】世の中に“良い”独裁ってありますか？

＊ここでは“良い”の定義を、「大衆の大多数を幸せにする」とする。

課題：この問いに対して、全員「ある」という立場に立ち、これを否定する人たちを説得しなさい。なお、その際以下の手順に従うこと。

論点①：第二次世界大戦後～現在までの間、実際に“良い”独裁政治のおこった国、時期、独裁者名をあげなさい。なお、その政権は独立国家（植民地をのぞく）のみを対象とする。また、その政権が現存しているかどうかは問わない。

論点②：あなたはその政権のどういう点を「独裁的」と評価するか、説明しなさい。なお、ここでは民主的ではないと考える点を述べていれば、「独裁的」と評価するものとする。

論点③：②のような状況があるにもかかわらず、あなたはなぜその政権を“良い”独裁と評価するのか。具体的な政策またはエピソードをあげ、論理的に説明しなさい。

【課題実施の目的】

「独裁政治＝悪」、「民主主義＝善」は揺るぎない価値観なのでしょうか。わたしたちは日頃より、一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性を認識していますね。また、歴史的出来事から知見を得ることで、SDGs を達成するにはどうすればよいかということも日々考えています。そこで今回は、「国家とは、どうあるべきか」を世界各国のさまざまな政権を通じて考えましょう。そして、「持続可能な社会はどう形成すべきか」という答えのない問いに対して、自分が一市民であるということを自覚しながら、「最善解」を導き出したいと思います。

【発表方法】

①発表持ち時間は１人３分とする（2:30～3:30）

＊内訳は特に定めないが、論点①～③をすべて網羅し、聴衆を論理的に説得できているかどうかを最大の評価基準とする

＊原稿は見ても構わないが、「読む」ではなく「伝える」が意識されていることを前提とする

②発表はグループで行う（6 人～7 人）

③iPad で発表用スライドを作成する

＊スライドの作成は、“ZEN プレゼンテーション”の手法にのっとる

④発表の様子はグループ内のメンバーがロイロで動画撮影し、授業後に提出する　＊ロイロカメラ使用

⑤グループの中で相互評価をし、もっとも説得力の高かった１名を選出する

⑥次回授業において、選出されたうちの数名は全体の前で発表を行う

【スケジュール】

◎2 組

2 日（月）課題提示
5 日（木）発表準備（各自）＠図書室
9 日（月）グループ発表
12 日（木）代表による全体発表、意見交流等
《公開授業》
16 日（月）まとめ
18 日（水）プリント授業《月曜時間割》
19 日（木）プリント授業
2 学期終了

◎1 組

30 日（土）課題提示
4 日（水）グループ発表
7 日（土）代表による全体発表、意見交流等
11 日（水）プリント授業
14 日（土）プリント授業
2 学期終了

【資料２】

プレゼンテーション評価シート

1年　　組　　番　氏名

●各自の発表を聞き、以下の基準を参考にして、４段階（12点満点）で採点してください。
（自分は評価しないこと）

1. 調査力　　調査すべき項目①～③についてきちんと調べているか。
2. 論理性　　発表の内容は筋が通っているか。納得がいくか。
3. 表現力　　発表はわかりやすいか。ZENプレゼンテーションの手法に則っているか。

	発表者名	1. 調査力	2. 論理性	3. 表現力	合計
1		点	点	点	点
2		点	点	点	点
3		点	点	点	点
4		点	点	点	点
5		点	点	点	点
6		点	点	点	点
7		点	点	点	点

あなたが選ぶ優秀プレゼンターは？

プレゼンテーション評価シート

1年　　組　　番　氏名

●各自の発表を聞き、以下の基準を参考にして、４段階（12点満点）で採点してください。
（自分は評価しないこと）

1. 調査力　　調査すべき項目①～③についてきちんと調べているか。
2. 論理性　　発表の内容は筋が通っているか。納得がいくか。
3. 表現力　　発表はわかりやすいか。ZENプレゼンテーションの手法に則っているか。

	発表者名	1. 調査力	2. 論理性	3. 表現力	合計
1		点	点	点	点
2		点	点	点	点
3		点	点	点	点
4		点	点	点	点
5		点	点	点	点
6		点	点	点	点
7		点	点	点	点

あなたが選ぶ優秀プレゼンターは？

【資料３】　　*※紙面都合上、問のみを掲載*

世界史Ａ（GL）【まとめ】　「国家」とは、どうあるべきか？　　ー持続可能な社会づくりを実現するためにー

問１．ルワンダが今後も安定して存続するためにはどうしたらよいか。あなたが考える最善解を理由と共に述べなさい。なおその際、優先順位の高いと思われることから順に論じること。

問２．ナチスのホロコーストを学んだあなたと現在のあなたは、「独裁政治」というものに対してどのように考え方が変化したか（あるいは、しなかったか）。自分の意見を述べなさい。

問３．ここでの学びを踏まえて（自分で調べた内容も含む）、持続可能な国家（社会）を形成するためには何が必要だと考えるか。政治・経済・外交・教育などさまざまな観点から、その理由と共に論じなさい。

１年　　組　　番　氏名

【資料４】

世界史Ａ

[redacted]と考える　世界の平和

ーベルギーからやってきた僕が、日本のみんなに伝えたいことー

ベルギー／[redacted]

●[redacted]の話を聞いて考えたことを、[redacted]に向けて書いてください（ひらがなで）。

例）わたし　は　にほんじん　で、　きょうと　に　すんで　います。

なまえ

●[redacted]の話を聞いて考えた自分の意見を述べなさい。

１年　　組　　番　氏名

Rwanda Stories

氏名：田橋知直　　学校名：追手門学院中高等学校
担当教科：英語　　実践教科：英語
時間数：20コマ　　対象学年：高校1年生　　人数：24 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：		
ルワンダのジェノサイドの歴史を通して、平和について考える。歴史を知るのみならず、このような惨事が起こった背景と、そこからの国の復興に大きな役割を果たした「赦し」に関して考察する。 授業実践に際して、様々な意見交換の場を設定し、様々な意見に触れる中で個性や多様性を認め、協調しながらも自分軸をしっかりもつ訓練の場とする。		
【2】 単元の評価 規準例	（ア）関心・意欲・態度	教材の内容を自分事にできる。他者との協働を通して自分の考えを進化させる。
	（イ）思考・判断・表現	比較・選択し判断する。
	（ウ）技能	考えたことを英語を使って表現できる。
	（エ）知識・理解	英文を正しく読解できる。新聞に出てくる語彙を広げる。
【3】 単元設定の理由 ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容	日ごろから「Critical Thinking」の大切さについては、英語のみならず各教科の授業やHR の時間に生徒たちは教員から伝えられるが、今一つ実感をもってそのことに向き合う機会が少ない。今回のルワンダの歴史、現状を題材として、「Critical」な視点がないと国がどのような方向に向いていくかを考える機会としたい。そういった意味で、歴史的にも、一見平和に見えるルワンダの現在においても抱えている「複眼思考」を学ぶのに最適な国である。願わくばそこから転じて、日本がたどってきた歴史にも目を向け、戦時中のようなイデオロギーがはびこらないよう、社会の変化を自分事として考えるきっかけにもしたい。 対象クラスの生徒はいわゆる「特進コース」の生徒である。素直な生徒たちであり、学校に対する帰属意識は高く、英語を含む学習に対するモチベーションも高い。一方で、いわゆる「受験勉強」も気になる生徒たちである。PBL 型の学びが将来に生きるのはわかる一方、従来型の日々成長が実感できる型の教育を求めているところもある生徒層である。 教材のポイントとしては、ジェノサイド自体よりも、そこに至った「憎しみの構築」の段階と、このような惨事を乗り越えた Gacaca 裁判をめぐる過程、さらにはそうは言っても実態として残っている現代のルワンダが抱える課題の部分にスポットライトを当てたい。	

	アフリカという、遠いところにあり、おそらく一生のうちでも訪れることのなさそうなルワンダという国で起こったことにショックを受けるところから始まり、その背景を理解することで理解を深めると共に、「平和」とは何かを考えられるようになり、その過程を通して Critical Thinking の重要さに気づくことを目標とする。その際、日本の戦時中の状況についてもあわせて考えることで、いかにアフリカという「物理的に遠いところ」、「全く文化的文脈の違う場所」で起こっていることを自分事に近づけることができるかが生徒の中に起こしたい変容の大きさを左右する。

【4】展開計画（全　20　時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	BBC News Reading 1992 年のジェノサイドについて、概要をつかむ。	BBC News の実際の記事を読む。語彙レベルも含め、かなりハードではあるが、グループ内で協力しながら読み解いていく。	BBC News 記事
2	BBC News Reading 1992 年のジェノサイドについて、概要をつかむ。	引き続き、News 記事を読む。	
3	BBC News Reading & Making Question 1992 年の Genocide についての記事から、疑問に思うことをまとめる。	引き続き、News 記事を読む。内容理解の確認のため、英問英答型のタスクに取り組む。 また、今後の教材をより自分に引きつけて考え、検証できるよう、自ら問いをたてる。	
4	Introduction to Rwanda 映像で読んだ記事内容を振り返ることで、より教材に関心を向ける。	BBC の記事内容の確認、さらにはより詳細な情報を得るために、映像教材を視聴する。その後、グループで内容について、添付資料①の Question を材料にディスカッションをする。課題として、ディスカッションを経て考えたことを英語でまとめる。	映像教材 a)
5	The Construction of Hatred どのようにルワンダ市民が「憎しみ」を募らせていったのかを考える。	映像教材を視聴する。その後、グループで内容について、添付資料②の Question を材料にディスカッションをする。今回は、次の展開のためにあえて英語での出力課題を課さない。	映像教材 b)
6	The Construction of Hatred どのようにルワンダ市民が「憎しみ」を募らせていったのかを知る。	ここまでの映像教材やディスカッションから見える、「憎しみの構築」の 10 の段階をまとめたものを提示する。２グループに分かれ、１グループは A～E を、２グループは F～J を読み解く。次回、ジグソー活動をすることを伝える。	添付資料 1
7	The Construction of Hatred どのようにルワンダ市民が「憎しみ」を募らせていったのかを知り、また自分自身の「憎しみの構築」のプロセスと比較する。	課題として読み取ってきたものを、別の課題を与えられたグループとペアになり、伝え合う。さらに、その中でどれが一番インパクトがあるかを改めて考え、その考えをグループ内で共有する。内容が浅くなるのを避けるため、議論は日本語でし、writing assignment として、議論を経て考えたことを英語でまとめ、出力する。	

8	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	映像教材 c) 映像教材 d) Original Textbook
9	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
10	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
11	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
12	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
13	How to Begin Building a Future 本単元の主題となる、「和解」のステージに入る前に、「謝罪・補償」と「赦し」について考える。	「謝罪・補償」と「赦し」に関する 8 つの設定された状況に対し、自分自身の立ち位置を考えるまず個人で考え、その後各質問に対しての答えをグループで話し合う。 議論を深いものにするために、日本語での議論を認める。課題として、英語で自分の考えを述べられるように準備をして次時に臨む。	
14 本時	日本語を理解しない人たちに対して、ここまで学んできたことに対しての自分の意見をどこまで伝えられるかを計る。	オーストラリア人インターン生を交え、議論する。議論を経て考えた内容を Short Speech として出力する。Short speech 中はシートにメモを取り、スピーチ後はリフレクションシートに記入し、自分の考えの変容を振り返る。	添付資料２
15	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Reconciliation、Gacaca 裁判の概要を知るために映像教材を視聴する。 Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す	映像教材 g) 映像教材 e) 映像教材 f) Original Textbook
16	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す	
17	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す	

18	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す 次回のムトボ武装解除・社会復帰センターの紹介に先駆けて映像教材を視聴する。	映像教材 h)
19	Reconciliation 和解のプロセスを知る。授業者が現地で触れたものを､｢授業者のリアル｣として伝える。	現地で見た、ムトボ武装解除・社会復帰センターでの交流を、画像を見せながら紹介する。彼らのコメントを紹介し、それについての意見を募る。最後は、彼らの言う「愛国心」について考え、Critical Thinking の大切さにつなげる。	現地で撮影した動画 写真
20	まとめ	プロジェクトを通して学んだことを、日本語でスピーチする。後日英文エッセイの形で提出させ、performance 点に加味する。	

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 5分	・グループに分かれる。 （メンバーは指定済み） ・本日の活動の確認 ① 課題（BBC News 記事）をもとに､ディスカッション ②ディスカッションで学んだことをプレゼンテーション		
展開 20分	グループディスカッション	各グループに 1 名、Griffith 大学のインターン生をつけ、ディスカッションをする。	
20分	グループプレゼンテーション	各グループより、全員が発言をする。持ち時間は一人 30 秒～1 分。プレゼンテーションを聞いている間は、メモを取る。	プレゼンテーションメモシート
まとめ 5分	リフレクション	1 番のみに取り組む。残りは次時までの課題とする。 変容の度合いが見えやすいよう、日本語での記入を認める。	リフレクションシート （添付資料２）

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）

写真①本時の活動・タイムフレームの確認

写真②グループ・ディスカッションの様子

写真③グループ・ディスカッションの様子２

写真④グループ内の様子１

写真⑤グループ内の様子②

写真⑥グループ・プレゼンテーションの様子

写真⑦リフレクションの様子１

写真⑧リフレクションの様子２

【6】本時の振返り

こちらが想定していたよりも、レベルの高い議論ができた。インターン生にも予習をして臨んでもらったが、彼らにとっても本校生徒から学ぶところが多かったようである。各グループより、与えられた問いに対して賛成・反対、さらにはそれを踏まえて思うところをスピーチできた。ただし、インターン生とのやり取りを、最後のスピーチに大きく反映させることができなかった。結局、用意してきたものがメインの発表になってしまい、「やりとり」から即興でスピーチをするレベルの英語力はまだ持ち合わせていないことが見えた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

当初は、「あり得ない」、「同じ人間とは思えない」という反応であったが、「憎しみの構築」の 10 ステージの内容を自分の身の回りに置き換えてみた時、戦時中の日本や、現在各地で起こっている「いじめ」の問題などと、通じるものがあることに気がついた。また、国連軍も含めた世界中が結果的にルワンダを見捨てることになったことなど、日本で報道されない情報を得るために重要な「英語を使ってのみアクセスできる情報」に対する感度が高まり、英語学習へのモチベーションが上がった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

当初は「受験英語」との乖離から、長期間にわたり取り組むことに不安を感じる生徒も多くいたが、これまで考えたこともないような内容をグループで読み取り、意見交換し、それによって自分の考えが進化していく過程を体験できた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

（授業前）

遠い存在。環境も含めた「前提」が全く違うので、日本に住む自分たちにはあまり関係のない話。

（授業後）

一見「あり得ないようなこと」が、実は自分たちのこれまでの人生の中でもよく考えてみると「いじめ」などの形で身近な問題として顕在化していること、また戦時中の日本のイデオロギーにも通ずるところがあり、ルワンダと日本を結びつけて考えることができた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	Rwanda ジェノサイドにまつわる「赦し」を通して、①広い意味での平和の在り方や構築の仕方を考えること　②そのために、外部情報にもアクセスしてクリティカルな視点でとらえること　③多様性の感度を高めるためには、その多様性が生まれるに至った背景に注目すること　を大きなテーマとして取り組んだ。が、当然その部分だけ切り取って提示するわけにも行かず、予備知識も含めてインプットすることから始めると壮大な計画となってしまった。さらに、それを英語で扱うことによって、格段にハードルがあがってしまった。
2. 改善点	予備知識の部分は日本語で、例えば社会の授業で扱い、その予備知識をベースに、欧米では、アフリカでは、ルワンダ国内ではどのように受け止められているかの情報を英語で手に入れるといったように、教科横断で取り組むべきであった。
3. 成果が出た点	・英語新聞記事でも、語彙を強化すれば十分に読めるということ ・日本には入ってこない情報が世界にはたくさんあるということ ・であるので、Critical Thinking は大切だということ ・以上のことが改めてわかる教材を作ることができた。
4. 備考（授業者による自由記述）	2 学期中間考査後、ひと月半をかけて取り組んできたが、当初の計画通りに進まず大幅に時間を延長して取り組むこととなってしまった。本来はここから先がクライマックスを迎えるところとなる。実践報告会など、また別の機会を見つけて、核心となるところの生徒の成長を伝えていきたいと思う。また、本教材は対象としては高校３年生あたりの教材として、倫理の授業なども巻き込んでの実践に向いているように思う。

添付資料：１　「憎しみの構築」の 10 の段階
　　２　Reflection Sheet　(2 種)

参考資料：

映像教材ウェブサイト

a) http://www.rwandanstories.org/origins/real_differences.html
b) http://www.rwandanstories.org/origins/hutu_and_tutsi.html
c) http://www.rwandanstories.org/ジェノサイド/marshes.html
d) http://www.rwandanstories.org/ジェノサイド/ntarama_church.html
e) http://www.rwandanstories.org/recovery/overloaded_system.html
f) http://www.rwandanstories.org/recovery/is_it_soft_justice.html
g) http://www.rwandanstories.org/recovery/confronting_the_past.html
h) http://www.rwandanstories.org/recovery/is_it_soft_justice.html
i) http://www.rwandanstories.org/recovery/building_peace.html

https://www.youtube.com/watch?v=6jKfZDb6D5s
Why I forgave the man who killed my children ―BBC Africa―

参考図書：

隣人が殺人者に変わる時　被害者編　　著：ジャン・ハッツフェルド　　かもがわ出版
隣人が殺人者に変わる時　加害者編　　著：ジャン・ハッツフェルド　　かもがわ出版
隣人が殺人者に変わる時　和解への道　　著：ジャン・ハッツフェルド　　かもがわ出版
ゆるしへの道　　著：イマキュレー・イリバギザ　女子パウロ会
History and Citizenship For Rwandan Schools　East African Educational Publishers Ltd.
History and Citizenship For Rwandan Schools　LONGHORN PUBLISHERS LIMITED
Christian Religion and Ethics For Rwandan Schools　LONGHORN PUBLISHERS LIMITED
Integrating Concepts of Peace & Values Education into Rwanda Classrooms Model Lesson Plans
Rwanda Education Board

When the situation goes beyond words and emotions, to actual violence

"What happens when a dash of violence is added to an already potent mix of fear, anger and suspicion?

Everything becomes more complicated. Every emotion is multiplied.

Fear increases: victims are afraid of further attacks while the perpetrators are often afraid of revenge."

When leaders are constantly telling us that one particular group is the reason for our problems

"In power, Habyarimana was relentless in the task of discrimination and scapegoating. The peasants were encouraged to blame the Tutsis for their problems."

When we lock-in our feelings and they become permanent 'positions'

"Over time, both killers and victims write their own mental stories of what happened, and why it happened.

Violence locks in the prejudice. '*We don't like each other*' becomes' *we hate each other - we're enemies.*"

When adults are passing on hatred to children

"The most dangerous way of dividing a society is to train the children at an early age to hate. A Tutsi child was being trained to hate a Hutu child, and a Hutu child was being trained to hate a Tutsi child."

When leaders create fear of others to get themselves off the hook

"The extremists told them repeatedly that the Tutsis were coming to seize their land. In reality the thieving of resources was being done by Habyarimana and his cronies."

When we take part in the violence ourselves

"People look for reasons - our own violence needs an explanation.

Often if we can't find satisfactory reasons, we will invent some. The most acceptable reasons - to us - are the ones which blame others and let ourselves off the hook.

The things we have done would be less horrifying to us if our prejudices were in fact true, so we choose to believe them.

Our own violence confirms our prejudice."

When there is a complicated history of hatred that goes back for generations

"You will never see the source of a genocide. It is buried too deep in grudges, under an accumulation of misunderstandings that we were the last to inherit. We were taught to obey absolutely, raised in hatred, stuffed with slogans..."

When different groups are not treated equally

"The introduction in 1933 of a mandatory identity card system deepened social divisions.

Every Rwandan citizen was obliged to carry the card. which stated his name and ethnic identity, i.e. Tutsi, Hutu or Twa."

When leaders are telling us there is no room for one group, and that they are keeping us poor

"The populist Hutu administration depicted all Tutsis as scheming, treacherous speculators and parasites in an overpopulated country."

When intelligent and popular people keep giving a minority group a very hard time

"In the years before the genocide, there was a stream of hostile anti-Tutsi propaganda from politicians, university professors and media personalities."

添付資料２

Reflection sheet 1

【in class】

１．How was the presentations?

Write about the most impressive moment, phrase, group, etc.

【assignment】

A. About your group

１．How was the discussion?

２．How did you contribute to the discussion?

３．Who else in your group contributed to the discussion? How?

４．What did you learn from your guest teacher?

B. About other groups

１．Which group did you like the best? Why?

２．What have you learned from other group's presentations?

Reflection sheet 2

【in class】

１．How was the presentations?

Write about the most impressive moment, phrase, group, etc.

【assignment】

A. About your group

１．How was the discussion?

２．How did you contribute to the discussion?

３．Who else in your group contributed to the discussion? How?

４．What did you learn from your students?

B. About other groups

１．Which group did you like the best? Why?

２．What have you learned from other group's presentations?

ルワンダを通して、高校生が感じる課題

氏名：森戸　隆文　　学校名：　兵庫県立赤穂高等学校全日制課程

担当教科：情報　　実践教科：情報

時間数：12 時間　　対象学年：２年　　人数：　235 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

グローバル社会で様々な問題が溢れている中、高校生が自ら他国（ルワンダ）を調べ、友達と情報共有し話し合うことで、視野を広げて多面的に捉え、問題発見・解決策を考える思考力を養う。そして、それらをまとめた内容を相手に伝わるように発表し、それをきいた生徒は批判的思考を持って質問を考える。

【2】 単元の評価 規準例	（ア）関心・意欲・態度	他国（ルワンダ）に対して、自分にとっての興味・関心を探し出し、自分の意見を積極的に発信している。
	（イ）思考・判断・表現	必要な資料は何か？グループで情報共有し、広い視野を持って多面的に捉え、その内容に対して適切な情報を判断し、問題発見・解決策を見出すことができる。また、それらを相手に伝わるようにまとめて表現することができる。
	（ウ）技能	大きな課題を発見した時は、グループで協働し、それを小さな問題に分割したり、身近な例で考えたりしながら、グループの意見を尊重しながら、自分の主張ができる。また、それらの主張を集約し、グループの考えとしてまとめることができる。
	（エ）知識・理解	課題発見するために集めた資料を理解し、さらに必要な資料が何かを、過去の情報や知識と結び付けることができる。

【3】
単元設定の理由

【生 徒 観】

生徒は大人しく真面目であるが、授業内での発言は控えめである。学びを深めて発言させる場面では、ペアワークを取り入れるなど、工夫が必要である。

【教 材 観】

本校で使用している教科書は実教出版の「高校 社会と情報」である。この教科書の第５章は問題解決であり、様々な分野と組み合わせることができる。現代では、グローバル社会で様々な問題が溢れている。高校生が自ら他国（ルワンダ）を調べることで「主体的に学ぶ態度」、広い視野を持って多面的に考えて問題発見・解決する「思考力・判断力・表現力」、そしてそれらをまとめて伝える「知識・技能」を養うきっかけとする。

【指 導 観】

教師による一方的な講義だけでは、知識・理解を深めることができない。過去に学んだ知識を問い、生徒同士で考えさせ問題の発見と解決を考えることにより、知識・理解を深めることができると考える。

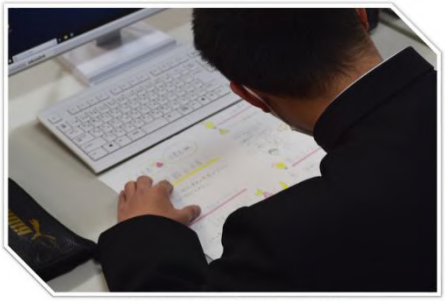
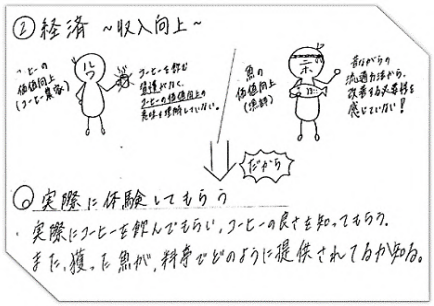
【設定時に想定された児童・生徒の変容】

（１）与えられた範囲の中で、自分の興味がある分野を探し出すことができる。

（２）探し出した情報が適切かどうかを判断できる。

（３）相手を意識して、伝わる内容に情報をまとめることができる。

【4】展開計画（全 12 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1・2	SDGs について	1 SDGs とは何か知ろう 2 SDGs を取り入れている学校や企業を探そう 3 身近なことと SDGs を関連付けよう 4 学んだことを A3 用紙にまとめよう **ポイント！** **SDGs が日々の生活・出来事との繋がりを意識できるようにする。** **生徒反応！** **SDGs がこんなにも注目されていたことに気づかなかったし、驚いた。**  調べた内容をA3用紙にまとめる。	・写真・動画 ・インターネット ・コンピュータ ・A3 用紙
3・4	ルワンダについて	1 ルワンダについて知ろう 2 フォトランゲージ 3 ルワンダでの ICT 発展 4 ジェノサイド **目標！** **ルワンダのジェノサイドと経済発展の関係性に気づき、日本と違い何が凄いのか考えよう。** **生徒反応！** **アフリカの貧しい印象が変わった。ジェノサイドは信じられない事だけど、その後の救しも信じられない。** 調べた内容をA3用紙にまとめた資料の１部分	・写真・動画 ・インターネット ・コンピュータ ・A3 用紙 ・ルワンダで入手した服・教科書・お土産等
5・6	ルワンダと日本の繋がりを探す	1 ルワンダと日本の繋がり・共通点を探そう 2 繋がり・共通点をペアで共有しよう 3 ルワンダの ICT 発展と神戸市との関係 **目標！** **ルワンダと日本はどのような繋がりがあるのかを探してみよう。** **生徒反応！** **以前みたテレビのロケ地がルワンダと知って驚いた。ロケ地がどこなのか気にしていたいことに気づいた。**  調べた内容をA3用紙にまとめた資料の１部分	・写真・動画 ・インターネット ・コンピュータ ・A3 用紙

7～10	プレゼン資料の作成	1 タイトルを考えよう 2 シンキングツールを活用しよう 3 情報共有し、ブラッシュアップしよう **目標！** **ブレストでアイディア出し、シンキングツールで整理、そして全体共有。これを何回も繰り返そう！** **生徒反応！** **考えるのは難しいけど、友達のアイディアから多くのヒントを得ることができた。** ブレーンストーミングでアイディアを出し合う	・インターネット ・コンピュータ ・シンキングツール
11・12 本時	プレゼン発表	1 プレゼン発表 2 質疑応答 **ポイント！** **それぞれの班が考え抜いた「課題発見・解決」とその理由を理解して、質問内容を考えよう！** **生徒反応！** **それぞれが違った課題をみつけ、解決策までしっかり考えられていてすごいと思った。** 発表の様子	・写真 ・コンピュータ ・ワークシート

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
2 分 導入	本時のねらいと進行手順について説明する。	 プレゼン発表直前、本時の目的を再確認	
30 分 展開	プレゼン発表 ワークシート記入	生徒の発表に支障が出ないよう、PCトラブルに備え、すぐに対応できるよう準備しておく。 ジェノサイドについて生徒が説明	・写真 ・コンピュータ ・ワークシート
4 分	感想をペア・班で共有 質疑・感想内容を班別で協議	机間支援で各グループの状況を把握する。 感想シートを班で共有し、質問を考える	・ワークシート
6 分	質疑応答	質疑応答の内容を、ささいなことでも褒め、次も質疑応答がしやすくなるように雰囲気をつくる。 質疑応答	
(8 分) まとめ	まとめ 振り返り	学んだことを応用すれば、それが他教科や社会人としても生かせる技能となることに気づかせる。	・写真

【6】本時の振返り

発表内容は、ただ調べたことをまとめて発表するだけにならないよう、「課題発見・解決」をメインにした発表をさせた。それぞれがルワンダを調べた結果、疑問に思った「急激な発展」や「ジェノサイドと赦し」などから課題発見し、自ら解決策を考え発表することができた。また、質疑応答でも生徒は批判的思考をもとに質問・感想を述べることができた。

当初、生徒はグループワークとなると消極的になりやすかった。そのため、普段からグループで取り組む大切さや、話しやすいような雰囲気つくり、そして協同学習しやすいように、ブレインストーミングやシンキングツールを活用した。徐々に生徒達が主体的に協力して学び始めた。お互いがブラッシュアップすることで考えた内容の質が向上するだけでなく、クラスで自分の意見を言いやすい雰囲気にでき、本時の授業が生徒主体で進めても、実りある時間となった。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

生徒が作成したスライドから抜粋

気付きからの自身の変容

「世界の果てまでイッテQ!」を見たことがあるが、国まで意識していなかった。普段から他国に対する意識を持つことでテレビも違った見方ができることに気づいた。

意識していると、名前も知らなかったルワンダも調べていくうちに興味が持てるようになった。何らかの関わりがあっても人は意識しないことには興味関心など生まれないことがわかった。

調査からの気付き・自己分析

調べると自分の都合の良い「ルワンダは豊か」という情報ばかり調べがちになった。確かに想像以上に豊かであったが、それは一部のルワンダ人で「豊か・貧しい」の2択では表現できない国だった。もっと多面的に深く理解をしなければならないと感じた。

生徒自身がルワンダについて主体的に学ぶことで、最初はルワンダをイメージすることができず、アフリカ大陸にあるから貧しいだろうという先入観を持っている生徒たちが、徐々にルワンダの実態を適切に理解していった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

もともと海外には興味がある生徒が多かったが、主体的に海外を学ぶ機会はなかった。しかし、今回の単元を通し、自主的に調べる機会が増えた。その結果、「アフリカの印象が変わった」「将来、海外と関わる仕事がしたい」「途上国で勉強を教えたい」など、生徒の意識が変わったことでキャリア教育としての進路選択の幅も変化していった。ある生徒の感想では

『僕たちはルワンダについて調べるにつれて僕たちの中に眠っていたルワンダへの好奇心が暴れだしそうになる感覚をおぼえ、グループ一同驚いています。授業の中で扱った、ただ１つの国にここまで気持ちが奪われるなんて思ってもみませんでした。気付いた時には頭の中は常にルワンダのことを考え、将来はルワンダと密接に関係した職業に就きたいと思います。素晴らしい国に出会えてよかったです。』

と書いていた。この感動・衝撃の積み重ねが新しい分野にも果敢に挑戦、主体的に学ぶための資質と成り得ると感じた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

（授業前）

自身が持っているアフリカに対するイメージと重ね、ルワンダは「貧しい・動物が多い・ジャングル・たくさん餓死している・子どもは学校に行けない」など、間違ったイメージを持っていた。先入観があることもそうだが、イメージ自体が表面的な部分でしか見てないようなことしか言えなかった。

（授業後）
　ルワンダに対して、どういった国かプレゼン発表できるくらい説明する力がついたとともに、多面的にルワンダという国を考えることができた。たとえば、貧困・裕福では説明できない現状や、ジェノサイドの加害者への赦した被害者の気持ちなど複雑な内容ではあったが、主体的に調べて自分で考えて得られた理解だからこそ、自分の言葉でプレゼン発表ができた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	１　ジェノサイドについて 　ルワンダという国の複雑さを生徒たちに理解させることに苦労した。特にジェノサイドと赦しの説明では加害者を赦す被害者の気持ち、和解村で加害者と被害者が共に暮らすなど、日本では考えられないことであった。 ２　思考力について 　今まで、プレゼン発表は「社会と情報　第５章　問題解決」で実施していた。題材はルワンダではないが、生徒が完成したスライドは教師が求めていたものとはかけ離れていることも少なくはなかった。やはり、生徒に丸投げしても何もよいアイディアはでてこない。発展途上のスライドの多くは、ストーリー性がなく何が言いたいのかわからず、ただ調べたことをまとめただけで、グループの考えがないスライドも多かった。
2. 改善点	１　ジェノサイドについて 　様々な価値観・文化を否定してはいけないという意識を持たせた。確かに日本人として理解できないことがあるかもしれないが、逆に日本文化も海外では受け入れがたいものもあると伝え、それぞれを否定しては何も生まれない、受け入れる必要はないが、その価値観・文化は尊重しなければ、そこから学ぶことが何もなくなってしまう。そういったスタンスで生徒は自分たちで集めた情報をかみ砕いて理解していった。 ２　思考力について 　今回の実践では「シンキングツール」「共有」「繰り返し」の３点を新たに加えた。流れは （１）ブレインストーミングや議論でたくさんのアイディアを出す。 （２）出たアイディアをシンキングツールで整理・整頓し、結論・主張を導く。 （３）全体に共有する。 （４）全体の中で優秀な結論・主張を受け入れ、自分たちと比較・融合する。 （５）（１）～（４）を繰り返す。 以上を踏まえて、思考してブラッシュアップする機会をたくさん設けた。
3. 成果が出た点	成果は「ルワンダの発展を知り、ジェノサイドと赦しの複雑さを学ぶ」「協同作業の経験」「シンキングルーツによる思考の整理」「課題発見」「解決策発見」の５つである。特に、身近でないルワンダという国を題材にしたにも関わらず、課題を発見して解決策を考えられたことは貴重な成果だ。なぜなら、これからの社会はグローバル社会による多様性の増加、ＩＴやＡＩの普及による激しい変化が予想できる。そういった社会で、今回のような経験を生かすことができると考えている。

4. 備考	次年度に向けた課題：特に改善が必要だったグループの共通点が「協同作成に対するモチベーションの低下」である。教員側で雰囲気を整えていたが、グループ活動に消極的になる生徒がいるグループでは、徐々に誰かがやってくれるだろうという雰囲気が広がり、グループ作成でありながら、代表の１人がほぼすべて作成してしまう単独作成になっていた。 改善策として、共同作成の進捗状況に合わせ、メンバーの役割を変更したり、メンバーの一部を別のグループと入れ替えたりするなど、流動性や刺激を与える工夫をしたいと考えている。

参考資料：

参考文献

1. 株式会社アンド(2019)，思考法図鑑 ひらめきを生む問題解決・アイデア発想のアプローチ 60，翔泳社
2. 黒上 晴夫(2019)，シンキングツールを学ぶ，株式会社 LoiLo
3. 前田鎌利(2019)，プレゼン資料のデザイン図鑑，ダイヤモンド社

参考 URL

1. JICA 広報誌「mundi」 2019 年 2 月号「国の未来を担う金の卵が続々誕生！　ルワンダ」
   https://www.jica.go.jp/publication/mundi/1902/ku57pq00002hxl7o-att/04.pdf
2. 外務省　ルワンダ共和国
   https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/rwanda/index.html
3. シンキングツール®～考えることを教えたい～（短縮版）
   http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf
4. 公益財団法人 愛知県国際交流協会
   国際理解教育教材：世界の国を知る・世界の国から学ぶ 「わたしたちの地球と未来」
   http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/PDF/H21/Rwanda.pdf

アフリカの奇跡“ルワンダ”

～あなたの大切なものは何ですか～

氏名：　辰巳　展崇　　所属名：　広陵町教育委員会事務局
担当：　指導主事　　実践教科：　総合的な学習の時間

時間数：各2～4時間　対象学年：小4・小5・小6・中1・教職員

人数：生駒市立あすか野小学校　5年生　231 名　広陵町立広陵東小学校　6 年生　50 名
広陵町立広陵中学校　1年生　188 名　広陵町立広陵北小学校　6 年生　38 名
広陵町立広陵東小学校　4・5年生　84 名　広陵町立広陵東小学校　教職員　24 名
広陵町教育委員会事務局　16 名

【実施概要】

<table>
<tr><td colspan="3">【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

違いを認め合い、一人ひとりが自分らしく生きるために、地球規模の課題に対して以下3点を設定する。
①　アフリカ“ルワンダの”現状を“知る”
・アフリカ“ルワンダ”における課題について考えることで、よりよい自己の生き方について考える。
②　課題に“気づき、考える”
・世界の国々の人々や文化に関心をもつとともに、価値観のちがいを理解し、自国や外国の文化を尊重する態度を育てる。
③　自分にできることを“実行する”
・世界中の人々が平和に安心して暮らせるようにするために、自分たちができることを考え実行する。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">【2】
単元の評価
規準</td><td>（ア）関心・意欲・態度</td><td>アフリカ“ルワンダ”という国に関心をもち、持続可能で公正な社会の実現へ向けて、自分ができることを意欲的に考え、「自分事」として捉える態度を養う。</td></tr>
<tr><td>（イ）思考・判断・表現</td><td>アフリカ“ルワンダ”の抱える諸問題と日本のつながりについて自分事として捉え、ＳＤＧｓをもとに持続可能で公正な社会の実現へ向けて自分ができることについて考えたりして、適切に表現している。</td></tr>
<tr><td>（ウ）技能</td><td>写真やグラフから必要な情報を読み取り、考えたことを分かりやすく表現する。</td></tr>
<tr><td>（エ）知識・理解</td><td>アフリカ“ルワンダ”の抱える諸問題と日本のつながりや、持続可能で公正な社会の実現へ向けて活動する組織・人々の願いや苦労について理解している。</td></tr>
<tr><td>【3】
単元設定</td><td colspan="2">授業対象が小４から中１まで年齢が多岐にわたっているため、児童生徒の実態に応じて、内容を変えながら実施した。

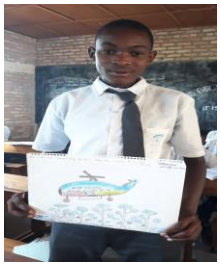
・相手の文化の違いや背景から異なる意見を大切にし，相手の考えを理解する。
・自分なりの見方や考え方を持ち，表現を工夫したりして，積極的に発信する。
・状況と目的に応じて，相手の立場を考えながら，対話や話し合いなどを通して，主体的にコミュニケーションを図る。</td></tr>
</table>

【4】展開計画（全４時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	**【アフリカ“ルワンダ”ってどんなとこ？】** ＊自分の考えに隠されている先入観や固定観念に気づく ①　地理的概要について ②　歴史について ＊歴史的概要について説明 ③　産業について ④　日本との関係 ＊日本とルワンダの共通点や違いに気づく	*SDGs ゴール１［貧困をなくそう］* ・世界地図を見ながら、日本とルワンダの地理的な違いなどを知る ・ルワンダってどんなとこ？ ・アフリカのイメージやルワンダグッズから思いついたことを話し合う。 ・ルワンダグッズでモノランゲージを行う ・地理的概要について説明する ・アフリカは「暑い」「乾燥している」というイメージが強いが、大陸の大部分は標高が高く、意外と涼しいことを理解する。 ・アフリカ大陸の自然環境をと関連付けて考える ・児童生徒の実態に応じてジェノサイドに関わる出来事を伝える ・ルワンダにおける農業について伝える ・ICT 立国について伝える ・頭上運搬について考える（フォトランゲージ） ・ジェリカン　水を運ぶ体験 （２ＯＬのポリタンクを運ぶ体験をする） ・三択問題　クイズ	・世界地図 ・アフリカの地図 ・ルワンダの地図 ・ワークシート ・PowerPoint 資料 ・写真 ・民芸品（太鼓など） ・ルワンダコーヒー ・２ＯＬのポリタンク ・ルワンダ国旗 ・アフリカの服 ・ルワンダのスーパーの紙袋
2	**【ルワンダの子どもたちについて知ろう】** ①日本の学校との違いや共通点に気づく ・学校生活について知る ②働く子どもたちについて ・普段の生活について知る	*SDGs ゴール４［質の高い教育をみんなに］* ・視察してきた各学校の学校生活を紹介 ・二部制であること ・卒業認定試験があること ・ルワンダの学校生活について （授業・給食・遊びなど） ・小学校就学率は 9 割以上あるが、卒業できるのは 7 割程度。卒業には、卒業検定試験があるので、それに合格できなければ卒業できない。また生活の貧しさからストリートチルドレンになるものもいることを知る	 ・PowerPoint 資料 ・写真 ・バナナの葉でできたボール
3	**【ジェンダーギャップについて考えよう】** ①日本とルワンダの固定的な性別による役割分担（男女格差）について学ぶ ・ルワンダにおける女性の国会議員の割合６１％ 【男女格差ランキング】 ルワンダ　　６位 日本　　１１０位 （調査１４９カ国中） ＊この結果をどう考えるか	*SDGs ゴール５［ジェンダーの平等*] ・世界には、「女性だから」という理由で教育や就職の機会が限られることがまだまだあるのが現状である。社会の中でつくられた役割としての「男女」もある。すべての女性や女の子も、男性と同じように機会を与えられ、能力を発揮できる社会の実現が大切である。私たちは、一人一人の中にある「当たり前」を見直すことがジェンダー平等のはじめの一歩になる。 ジェンダーギャップ 2018 世界経済フォーラム発表 男女格差が小さい順に①アイスランド②ノルウェー③スウェーデン④フィンランド⑤ニカラグア⑥ルワンダ・・・・・日本は１１０位	 ・PowerPoint 資料 ・資料データ

	②いろいろな違い～あっていい違い・ダメな違い～ ＊一人一人違って当たり前違いを認め合っていくには、どうしたらいいのか ＊自分の中に、「思い込み」があることに気付く ＊違いを認め合うには自分の中の考えも変える必要性があることを実感する	・世界の中には、同じ国の中に民族対立があったり、学校に行けず、家族のために働く子どもがいたりすることを知る ・違いには、あってもいい違いと、あってはいけない違いがあることに気付く ・人には「思い込み」があり、そのために事実と違うことでも「正しい」と考えることがあることや、「思い込み」は、人の見た目で判断すること等から起こることに気付くことができた。そして、それは自分の心の中に問題があることに気付く子どもがいた。また、「思い込み」のために、人が悲しい思いをすることにも気付く。	
4 本時	**【あなたにとって一番大切なものは何ですか？】** What is the most important thing to you ? ①それぞれの“自分にとって大切なもの”を発表する。 【あなたにとって平和とは何ですか？】 What is peace for you ? ① それぞれの“自分にとっての平和”を発表する。 ② ルワンダの子どもたちの“平和”を知る。 【元戦闘員からのメッセージ】 	・自分にとって最も大切なものを発表する。 ［物・人・精神的なもの（心の中のもの）］ 自分だけじゃなく、周りの人にとっても大切なもの。毎日、安心して暮らしていくために必要なこととか・・・。 ・ルワンダの子どもたちの大切なものを知る。 ・それぞれの“自分にとっての平和”を発表する。 ・ルワンダの子どもたちの“平和”について知る。 ・元戦闘員の話から考える なぜルワンダに戻ってこようと思ったのか 今後の Vision は？ あなたにとって大切なものは何ですか。 日本の子どもたちにメッセージ 「争いからは、何も生まれない。生まれるとしたら、悲しみと憎しみだけ」という元戦闘員の言葉について、自分たちの生活に戻して考える。	・PowerPoint 資料 ・ワークシート

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （５分） 展開 (25 分)	これまでの授業を振り返る 【あなたにとって一番大切なものは何ですか？】 What is the most important thing to you ? ①それぞれの“自分にとって大切なもの”を発表する。 ②ルワンダの子どもたちの“大切なもの”を知る。 ★ウムチョムイザ学園訪問　（小学生１３人） お金６人　家族２人　水２人　家２人 地球１人 ★ルリンド郡庁　小学校訪問　（小学生９人） 家族４人　水２人　家２人　お金１人 ★ルワマガナ　Home Visit 訪問　（６人） 家畜１人　家族　４人　家２人 ★ムハンガ教員養成校訪問　（学生２６人） 家族６人　命６人　水４人　健康３人 学校２人　花１人　ドクターヘリ１人 ギター１人　地球１人　お金１人 【あなたにとって平和とは何ですか？】　What is peace for you ? ①　それぞれの“自分にとっての平和”を発表する。 ・争いがない社会　・みんなが笑顔になれる世界　・戦争がない世界　・差別がないこと　・平凡な日々　・戦争や争いがないこと　・豊かな暮らし・毎日きちんとごはんが食べられること　・大切な人がそばにいること　・不平等でないこと　など ②　ルワンダの子どもたちの“平和”を知る。 【ムトボの元民兵の話を聞く】 ・なぜルワンダに戻ってこようと思ったのか。 ・今後の Vision は？ ・あなたにとって大切なものは? ・日本の子どもたちにメッセージ	日本・・・家族・命・親友・ゲーム機・お金 家・食料・空気・平和な世の中 ペット・健康・スマホ・地球 ルワンダの子どもたちが書いた“あなたにとって大切なもの”の絵からどういう意図でそれを選んだのかを考え、理由を知る。 自分たちの“大切なもの”と比べる 自分の思いをペア、班で共有し、学級全体に発表する。 もしも世界中の人が、大切なものを見せ合うことができたら、お互いにより理解し合えるようになり、世の中の争いごとを少しでも減らすことができるかもしれない。そうすれば、少しだけ世界中の人が幸せに近づくことができるかもしれません。 <u>＜元民兵の話から考える＞</u> 「争いからは何も生まれない。生まれるとしたら悲しみと憎しみだけ」という元民兵の言葉について、平和構築・和解について自分たちの生活に戻して考える。 これまでの学習を振り返り、自分事として何ができるか考え、発表する	
まとめ （15 分）	まとめ［共有タイム］		

【授業実践の様子】

・それぞれの学校での授業は、学年全体で行ったため、体育館や多目的ホールなど広いスペースで、スクリーンを使って行った。各学級の教室で行うことができれば良かったのだが、子どもたちから出た意見を黒板に書き留めておくことができなかったのが、残念であった。
・ワークシートを使用したので、フロアに座っての記入は困難であった。
・何日かに分けて系統立てて、授業実践を行いたかったが、自校ではないため、単発での出前授業形式となり、４時間の内容を２時間で伝えることで、広く浅い内容となってしまった。
・ルワンダ方式での挙手を行った。たくさんの意見を得ることができたことは大きな成果であった。

【6】本時の振返り

・4 時間構成で考えていたが、自校での授業実践ではないため、内容を詰めてほとんどの学校では２時間で各校に出前授業という形で行かせていただいた。中学校１校。小学校３校。職員研修１校
・学校の実態、児童生徒の実態に合わせて、内容を変えながら、視覚的要素を多用し、少しでも多くの児童生徒に理解を深めるために、全てパワーポイントを使用して授業をすすめた。
・学年全体として授業を行ったため、一人一人の考えや意見を聞いたりすることが困難であった。出た意見に対して、議論し話し合う活動ができなかったところが多く、様々な意見をもっと吸い上げることができたらよかった。
・今回、ルワンダの４つの学校で聞き取りをした“あなたにとって大切なものは何ですか？”について考えた。もしも世界中の人全てが、自分にとって大切なものを伝えることができるなら、お互いにより理解し合えるようになり、世の中の争いごとを減らすことができるかもしれない。そうすれば、少しだけ世界中の人が幸せに近づくことができるかもしれないということに気付いた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

【ふりかえりシートより】

『アフリカ“ルワンダ”という国に関して』

♦ルワンダは私が想像していたのと全然ちがう国でした。アフリカというだけで、貧しいと思ってしまっていたことが恥ずかしくなりました。ICT 立国を目指していたり、ジェンダーに関して格差が少なかったり、日本も見習わないといけないところが、たくさんある国だとわかりました。
♦僕は、アフリカのイメージがいい意味で崩れました。それはアフリカと言えば、全部が大自然で野生動物だらけだと思っていたからです。しかし、アフリカもどんどん発展していて、高いビルもあると知って驚きでした。それにルワンダは赤道に近い国であるし、アフリカはどこも暑いと思っていたのに、とっても涼しく過ごしやすい国だと知りました。
♦ルワンダは貧しいイメージだったけど、自然も豊かで、心も豊かな国だとわかりました。しかし、ルワンダは、大虐殺があった国だと知ってびっくりしました。でもその後に国のイメージ戦略が成功し、今は平和な暮らしを人々は送っていることに私は嬉しく思いました。
♦今回、いろいろと話を聞かせてもらって、世界が広がりました。ルワンダのこと。アフリカのこと。私は、みんなも思っていたような大草原で、ヤリをもった黒人の人がいて、野生動物がたくさんいるところとしか思っていなかったからです。
♦日本は、ジェンダーに関してすごく進んでいる国だと思っていたけど、まだまだ男女格差があると知って少しショックだった。
♦いかに日本に住んでる私たちは、ぜいたくなんだなぁと思いました。日本は、世界中からたくさんのものを輸入しています。それなのに、全てが食べられずに捨てられるものがあると知って、世界では食べられない人がいるというのに、恥ずかしい気持ちになりました。

『あなたにとって“一番大切なもの”は何ですか？』に関して

♦一番大切なものの中に、『学校』と書いている人がいたのはびっくりでした。僕は、学校は必要だとは思いますが、一番大切なものだと言われば、そうではないからです。でも理由を聞いて、なるほどなぁと思いました。今回、あらためて自分にとって大切なものは何だろうと考えたとき、“家族”かなと思いました。たとえモノがすべて無くなっても、家族さえいれば励まし合って、またなんとかやっていけるからです。だから、僕は、家族を大事にしたいです。物質的に豊かであっても、心も豊かであるとは限らない。それは自分にとって大切なものが何であるかで、よくわかりました。

♦ルワンダの人は一番大切なものが『学校』と書いている人がいました。私には思いもつきませんでした。しかし理由を聞いて、なるほどなと思いました。教育って、本当に大事なんだなぁと思いました。

♦私はルワンダの子が、「あなたにとって大切なものは何ですか」の質問に、感動したものがありました。それは、『家族との思い出』と答えた子でした。思い出は、形には残らないけど、記憶に残ります。それは貧しくてもしっかりと自分の記憶の中に刻むことができる。わたしは感動しました。

♦ルワンダの子で、一番大切なものが『花』と言っていた子が、なぜ花なのか理由を知って感動しました。私にとってもそんな素敵な大切なものを見つけたいです。

♦ルワンダの子どもたちが考える“最も大切なこと”は、随分自分たちと違うんだなぁと思いました。大切なものに“学校”“教育”という発想はありませんでした。それは今、私は豊かな生活をしているからなのかもしれません。私は、学校に毎日行けることに感謝したいと思います。

♦いつも勉強は、面倒くさいと思っているけど、今日の話の中で、ルワンダの子どもたちは、大切なものが『学校』『勉強』と言っている子たちがいて驚きました。僕は、今まで勉強なんて大切と思ったことがなかったからです。それにルワンダは、フランス語から英語に公用語がかわるなんて、僕はきっとパニックになるでしょう。ルワンダの子たちは、すごいと思いました。

『あなたにとって“平和”とは何ですか？』に関して

♦ルワンダは、２５年前にジェノサイドでたくさんの人が殺されたと聞いてとてもショックでした。ジェノサイドで学校が襲撃されたとき、一人の男の子が「僕はフツでもツチでもない。ぼくはルワンダ人だ」と言った勇気ある少年の言葉は、私の胸に突き刺さりました。「みんな同じルワンダ人」その通りだと思いました。でも、私の最も大切な家族を殺されたら、私だったらどんな気持ちなんだろうと・・・。きっと許さないと思います。しかし、なぜルワンダの人たちは、家族が殺されたのに、それを許せるのか、許そうと思ったのか不思議でした。とてもわかりやすくためになりました。

♦私は、今回、多くのことを学びました。協力することの大切さを学習する“風船ゲーム”。自分勝手なことをしていては、目的を達成できないと知りました。私たちの“ふつう”が、普通ではないことがたくさんありました。学んだことを一人でも多くの人に伝えたい気持ちになりました。

♦人と人が殺し合うことが、なんて残虐なことなんだと思いました。とても悲しくなりました。先日、修学旅行で広島に訪れたとき、戦争の悲惨さを学習しましたが、今日学んだ“争いからは何も生まれない。生まれるのは悲しみ、憎しみだけ・・・”という言葉が、ほんとそうだななぁと思いました。私もちょっとしたことで怒らずに、相手の思いをしっかりと受けとめてあげようと思いました。

♦『争いからは何も生まれない』世界から戦争や様々な争いがなくなって欲しいと心の底から思いました。何も罪もない人々が殺されることに怒りを感じました。ジェノサイドは、とても恐ろしいと思いました。顔見知りの人に殺されるなんて、考えられないです。その憎しみは一生消えないと思うのに、どうしてまた普通に一緒に暮らしていけるのが、とっても不思議でした。“ゆるし”って、本当にあるんですね。些細なことでもめてケンカしてしまう私たち。考えさせられました。

♦元民兵の人たちが、私たちにくれたメッセージを大切にしていこうと思います。同じ地球に住む人間同士。争いのない楽しく素敵な世界になってくれればいいなぁと思いました。

♦世界でそんなことが起こっていていたとは初めて知りました。僕は、この生活に感謝すると同時に、一人ひとりが自分らしく生きることができる世界になったらなぁと思いました。今、住んでいる自分たちの生活が豊かであればそれでいいという考えがなくなりました。今の僕たちに大切なこと、すべきことは『無関心にならないこと』そして『自分事として考えること』が強く印象に残りました。

♦私は、たまに学校に行きたくないと思うことがあります。それは、宿題をしていなかったときです。でも世界には、勉強したくてもできない。学校に行きたくても行けない子たちがたくさんいることを知り、貧困のスパイラルの話が、私はすごく納得しました。きちんと教育を受けることができていることに感謝したいと思います。私は、家に帰って真っ先に今日学んだことをお母さんに話しました。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

・「争いからは何も生まれない」という元民兵の言葉は、児童らの心に響いたようだ。子どもたちの意見の中に、「友だちと意見が食い違った時、いかに話し合いが大切か、また協力することもお互いの思いをどれだけ尊重できるか考えるきっかけとなった。」とあり、違いを認め合うには、自分の中の考えを変える必要性があると感じる子どももいた。

・ルワンダにおいて、本当の“ゆるし”というものは存在するのだろうか。家族が隣人に殺され、『ゆるす』ということは可能なのか自分自身納得できないところがあり、児童らにも問うてみた。大多数からは「絶対許すことができない」「なぜまたジェノサイドが起こる前のように普通に生活できるのか理解できない」「家族が殺されたら、一生恨むと思う」という意見が多かったが、中には「憎んでももう仕方ない。前を向いて生きていくしかない。だから、ゆるすしかないのかもしれない。」「ルワンダが選んだ道は正しかったのだと思う」と答えた子もいた。ネガティブな意識を国の発展に向けるというまさにルワンダが目指してきたこれまでの道のりのようであると感じた。

【途上国・異文化への意識の変容について】

（授業前）

・アフリカのイメージは「野生動物」と「広大な大地」など雄大な自然に関するものと、「貧しい」「暑い」「怖い」「栄養失調」といったネガティブなものがほとんどであり、児童はアフリカの人や文化に触る機会はこれまでになく、テレビなどで見聞きしているものが大きく影響していると考えられる。

・どうしても「自分事」として考えることができず、「他人事」としてとらえる傾向があり、「かわいそう」「日本に生まれてよかった」という感想がはじめに見られた。また自分のたちとの違いや珍しいものに目が行きがちである。「相違点」だけでなく、「共通点」を発見することで、これからの国際社会に目を向けられる資質や能力を養うことにつながるのではないかと考えた。

（授業後）

・ほとんどの児童は、アフリカに対する固定概念が覆ったようだ。アフリカ“ルワンダ”にも高層ビルが建ち並ぶ街があることを知り、都会と田舎のギャップに大きく差があることを知った。

・「世界中で起きている様々な課題は実は他人事ではなかったのだ。」「なんとかしたい。日本はそのために何かしているのか。」という思いをもつことができ、今後の自分たちの活動として、主体的に『自分事』としてとらえて考えられるようになった。

・自分だけじゃなく、周りの人にとっても大切なものを考え、今を生きるということは、毎日安心して暮らしていくために必要であり、自分のことだけ考えていてはいけないということを学んだようだ。

【8】自己評価

1. 苦 労 し た 点	・単発的な出前授業という形式であったため系統立てた取組ができなかった。今回、私が見たルワンダは、ほんの一部であり、この研修で見聞きしたことのみを素材として、「これがルワンダだ」と紹介するわけにはいかない。しかし、撮ってきた写真を使いフォトランゲージで写真から読み取れることから考え議論する機会を持った。また導入ではクイズ形式で興味・関心を持たせた上で授業展開を行った。元民兵から貴重な話をたくさん聞くことができたが、子どもたちに話すには重い内容も多く、政治的な部分や人種の繊細な部分に踏み込んだ話をできなかったことが悔やまれる。 ・人権教育、平和学習の一環として国民がどのようにして悲劇から乗り越えようとしているのか、乗り越えられたのか。悲しい歴史から立ち上がろうとしている人々の思いや国の姿勢、またマリールイズさんの言葉にあった「命さえあれば何でもできる。財産すべて失っても学んだことは自分自身の大きな財産。それはいつか役立つ。だから教育が必要。教室には夢がある。教育は、平和と発展への扉の鍵」というメッセージも子どもたちに伝えたが、“平和”“教育”とテーマが大きく、時間をかけてもっと深いところまで追求できればよかった。
2. 改 善 点	・実施する授業時間数を分割して増やすことができれば、もっと“なぜ”を問うことが可能であったと思う。それぞれの学校事情もあるので、年度途中ではなかなか授業時数を調整してプログラムを入れてもらいにくいので、年度当初に学校側と相談させてもらい、国際理解教育の中でプログラムを系統立てて入れてもらえると、より理解を深める活動が行えるかと思う。内容を精選しながら構成したが、講義形式で盛りだくさんになってしまった感は否めない。今後の単元構成作成時には、より精選し子どもたちの記憶に残るルワンダの今を伝えたいと思う。
3. 成 果 が 出 た 点	・授業を行う対象児童生徒の人数が多かったため、パワーポイントを用いた。視覚的に有効な写真を多く活用することで、理解を深めるためには効果的であった。一つの学校だけでなく、他校の学校にも広げることができたのが大きな成果だと言える。どの学校でも子どもたちは、熱心に耳を傾けてくれ、国際的な諸問題は「他人事」ではなく、「自分事」と考える必要性を理解しようとする姿勢がみられ、自分の生活との関わりや、自分の生活を見直すきっかけになったことと思う。 ・５つの出前授業を行うことで、それぞれの学校、学年の子どもたちの考えや思いを吸い上げることができ、学校、学年によっても認識が様々であった。ふり返りシートをまとめたものを他校でも共有してもらい、いろいろな考えを知る、考える要素の一つとして広げることができた。
4. 備 考	ルワンダの子どもたちと触れあう中で感じたことは、貧しいと思っていたルワンダには、豊かになりすぎた日本が無くしてしまった心の豊かさがあった。ルワンダは、２５年前の虐殺という負の遺産を乗り越え、多様な社会の実現を国を挙げて目指しているが、ジェノサイドメモリアルで見た光景は忘れられない。傷ついた壁、銃で穴の空いた天井、遺品としての数々の衣服に言葉を失う。当時の悲惨な虐殺の光景が脳裏に浮かんだ。過去のものととらえず、けっして風化してはならない後世に伝えていく大切な負の遺産である。国策が立てられ急速に国づくりが行われたことが伺えた。今は“ゆるし”という名のもと、平和な暮らしが保たれている。その和解のプロセスに教育の役割があるということ。明日を生き抜く力をもっていても機会に恵まれないルワンダの子どもたち。やろうと思えばたくさんの機会を手に入れられるが夢をもてない日本の子どもたち。どちらもこれからの世界を背負っていく子どもたち。日本の子どもたちに心の豊かさについても伝えていきたいと感じた。

参考資料：・写真絵本「あなたの大切なものは何ですか？（ツバル共和国）（カンボジア）」山本　敏晴
・「ルワンダの祈り」　後藤　健二　　・「ぼくのこえがきこえますか」　田島征三
・「せんそうしない」　たにかわ　しゅんたろう　・「へいわってすてきだね」　安里　有生

え！JICAを活用したら
こんなことができるんだ！？

JICA関西

開発教育支援事業のご案内

SDGsの達成、持続可能な社会の実現のために

世界を知って、考えて、行動しよう！

グローバル化が進む世界では地球に住む私たち自身が自らのライフスタイルを見つめなおし、国際社会が抱える課題に主体的にどのように取り組むかが急務となっています。

持続可能な社会の実現のため、JICAでは日本が行う国際協力事業で培った知見・経験・人材を活用し、日本の地域や教育現場で①国際協力の理解と促進、②未来の地球を担う人材育成を目的に開発教育支援事業を実施しています。

教室に世界がやってくる

国際協力出前講座

開発途上国での活動体験を伝えるJICA海外協力隊経験者等を紹介します。

費用：講師への謝金および交通費をご負担ください。
※謝金規程がない場合はJICA規程をご参考にしていただいています。

実施日：通年を通して実施可能です。

日本の国際協力を知ろう！

JICA関西訪問プログラム

JICA事業概要説明、JICA海外協力隊体験談、施設見学、民族衣装体験、エスニック料理（有料）などご要望に応じてプログラムを実施します。

費用：無料
※エスニック料理をお申込みの際は有料です。

実施日：通年を通して実施可能です。
※土日祝を除く月曜～金曜の10:00～17:00

世界と出会う！！

海外技術研修員との交流

学校が企画するプログラムへと、開発途上国から来日中の海外技術研修員を派遣します。 ※研修員は日本が国際協力を行う相手国政府の行政官や技術者等です。

費用：プログラム実施経費（通訳や食費等）は依頼団体がご負担ください。

応募方法：年2回(4月と9月を予定)、交流候補日をJICA関西ホームページで公開します。

世界を見つめてみよう！

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

国際社会の中で気づいたことや行った行動についてのエッセイを年に1回ご応募いただいています。毎年全国から7万点程度のご応募をいただいています。(参加賞あり)

対象：全国の中学生、高校生
（海外の日本人学校生徒からも受け付けています）

実施日：通年を通して実施可能です。
※土日祝を除く月曜～金曜の10:00～17:00

先生の授業に役立つ！

開発教育指導者研修

関西2府4県において、開発教育／国際教育等に取り組む先生や学生、市民の皆様に役立つ講演、教材体験やワークショップ、情報提供などを行っています。

費用：無料
※参加にかかる交通費や食費は自己負担

実施日：JICA関西ホームページ「イベント情報」で最新情報をご確認ください。※イベント名称は各々のセミナーで異なります。

お問い合わせ先

独立行政法人国際協力機構 関西センター（JICA 関西）
市民参加協力課　教師海外研修担当　　E-mail：jicaksic-kaihatsu@jica.go.jp

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2　電話：078-261-0384(課直通)、FAX：078-261-0357
(問い合わせ受付時間：土日祝を除く平日、10:00 ～ 12:00、13:30 ～ 17:30)